

校区のあゆみ

岩西

豊橋校区史

14

Iwanishi







豊橋市制施行100周年記念

校区のあゆみ 岩西

岩西校区は人口約9,000人。交通の要、国道一号線とJR東海道線・新幹線に挟まれた街。戦後、荒地が、軍用地、農地、住宅地と変わってきた。



子どもたちは 家の宝 校区の宝



校区は岩西小学校を中心に発展してきた。学校建設の歴史を刻んだローラーが伸びゆく子どもたちの成長を見守っている。



平成18年春、岩西小学校を巣立つ子どもたち、新たに入学した子どもたち。この子どもたちが地域の未来を担う。子どもたちは宝。



平成17年度卒業式



平成18年度入学式



全校の子どもたちが学年の枠を超えてグループを作り、さまざまな活動を行っている。少子化の時代だからこそ、こうした縦割りの活動がたいせつだ。



岩西校区成人式は校区総代会の協力はもとより、社会教育委員会が行っている。
司会から閉会までの全てを新成人が担当を決め、自由なスタイルでの式典となっている。
新しい門出を祝うにふさわしいムードの中で毎年式が進められている。



東部中学校



昭和57年（1982）春開校の豊橋市立東部中学校。
生徒数が800名を超える市内でも有数の大規模校となっている。



市制施行100周年を記念 岩西夏祭り

午前は岩西小体育館を会場に、午後は運動場で模擬店、サンバをとり
入れた盆踊りで楽しんだ。フィナーレは大山津美神社に伝わる花火が出
され多くの人が夏の夜を楽しんだ。

街を守る

早朝、岩西小学校の運動場では消防団（豊橋第二方面隊・岩西分団）の皆さんが操法放水大会に向け、訓練に励んでいた。「自らの地域は自ら守る。」という郷土愛護の精神に基づき活動している。



岩西校区における防災訓練は、毎年10月に行われている。訓練は、消防団が中心となり参加型の訓練を行っている。

子どもを守る

校区の見回りや交通立番を強化するとともに、老人会ではあいさつ運動にも取り組み、校区あげて安全な街をめざしている。



子どもをねらった凶悪事件が多発する中、総代会・校区健全育成会は、小学校全児童に「防犯ブザー」を配布した。

写真は、ブザーをもらった子どもたち。

発刊によせて



平成18年度
豊橋市総代会長

西 義 雄

このたび、豊橋市制施行100周年を記念し、「豊橋校区史～校区のあゆみ」を発刊する運びとなりました。皆様のご協力により記念事業にすばらしい彩りを添えることができましたことを、心よりうれしく思います。

この事業は、100年の節目を契機に地域の歴史や文化、自然などを改めて見つめ直し、将来の夢に思いを馳せていただくものであり、51校区すべてが足並みを揃え発刊できたことに、たいへん大きな意義を感じています。また、各校区におきましては、編集委員を中心に多くの地域住民の皆さんが資料の収集や原稿の執筆などに携わられたことと思います。こうした取組みを通し、地域の絆がさらに深まったものと考えています。

地域イベントの開催を含め「市民が主役」を合言葉に行政と協働で進めてきた100周年記念事業ですが、多くの地域住民の方々が様々な形で挙って参加できたことが何よりの成果であったと思います。今後におきましても、この100周年記念事業を一過性のものに終わらせるのではなく、次の100年に繋げていかなければならないと考えています。

最後に、本校区史の発刊にあたり、多大なご協力を頂いた多くの皆様に改めてお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



平成18年度
岩西校区総代会長

加 藤 章

江戸時代に出た「東海道名所図絵」によると、「二川宿を出て岩屋を拝み、火打坂を登ると右方に小岩村あり」という記事があり、これがこの地区の集落についての最初の記録といわれています。岩西小学校ができる以前、この岩西地区一帯は台地であるために稲作のできない痩せた土地でした。また、笹や小松の原が広がる荒地だったといわれます。畑作も困難だったと思われます。そのため、集落らしいものはほとんど見られなかったようです。

近年、多くの人々がこの地に住居を構え、病院や商店も軒を並べるまでに発展しております。また、この岩西校区には長三池・幸公園や福祉施設もあり、学校や各種団体の活動・事業も充実し、住みよい街となってきました。

豊橋市が市制施行100周年を迎えた今、あらためて私たちの住むこの地域の現状や歴史を「あゆみ」としてまとめ、これを次の時代の人たちへ残すことは、地域の更なる発展につながることを確信するものであります。

岩西小学校の先生方をはじめ、本誌の編集に協力いただいた方々に深く感謝するとともに、各家庭におかれましても地域を理解するための貴重な資料として活用されることをお願いいたします。

本校区が、100年先、200年先に向けてさらによりよい街となっていくことを皆様とともに願うものであります。

目次

CONTENTS

第1章 自然と環境

- 1 位置、自然 …………… 7
 - (1) 豊橋の南東部に位置する岩西校区 …… 7
 - (2) 土地の形状とその地質 …………… 7
- 2 土地のようす …………… 8
 - (1) 高師原台地 …………… 8
 - (2) 長三池 …………… 8
- 3 土地利用 …………… 8
 - (1) 生活とくらし …………… 9
 - (2) 用水・上下水道 …………… 12

第2章 歴史と生活

- 1 あゆみ …………… 13
 - (1) 古墳時代のようす …………… 13
 - (2) 奈良時代から平安時代のようす …… 13
 - (3) 江戸時代のようす …………… 14
 - (4) 明治から大正のようす …………… 15
 - (5) 戦争のころー軍用地としてー …… 15
 - (6) 戦後①ー岩西工区の開拓ー …… 17
 - (7) 戦後②ー愛生郷についてー …… 19
- 2 校区の活動 …………… 21
 - (1) 岩西校区総代会 …………… 21
 - (2) 子ども会の取り組み …………… 21
 - (3) 校区530運動の取り組み …………… 23
 - (4) 青少年健全育成委員会の取り組み …… 23
 - (5) 校区防災訓練の取り組み …………… 24
 - (6) 校区体育委員会の取り組み …………… 25
 - (7) 社会教育委員会の取り組み(成人式) …… 25
 - (8) 文化協会の取り組み …………… 25
- 3 岩西校区の人口及び産業 …………… 26
 - (1) 岩西校区における人口推移 …… 26

- (2) 外国人登録者の推移 …………… 26
- (3) 岩西校区における産業の推移 …… 27

第3章 教育と文化

- 1 学校教育、保育 …………… 28
 - (1) 小学校の移り変わり …………… 28
 - (2) 岩西小学校のあゆみ …………… 29
 - (3) 中学校 …………… 34
 - (5) 幼児保育・教育施設 …………… 42
- 2 社会教育 …………… 44
 - (1) 期待される地域社会の力 …………… 44
 - (2) 社会教育委員会と東部地区市民館 …… 45
 - (3) 東部地区市民館の活動 …………… 45

資料 …………… 47

岩西校区・周辺校区の町名由来、通学区域 … 47

岩西小学校卒業アルバムより

昭和28年(1953)

校区の歴史 …………… 48

昭和28年(1953)撮影の航空写真 …… 50

昭和36年(1961)撮影の航空写真 …… 50

編集後記 …………… 51



第1章 自然と環境

1 位置、自然

(1) 豊橋の南東部に位置する岩西校区

岩西校区は、豊橋の南東部、高師原台地の北端に位置している。

南北約1.6km、東西約1.6km、面積は約4km²の校区である。

南はJR東海道線を境として幸校区と接し、西は、つつじが丘校区と北東は、国道一号線を境とし、飯村校区と接している。

岩西校区から車で豊橋駅までは約15分、二川駅までは、約15分である。この住宅地には近代的な住宅が建ったり、長三池も幸公園としてモダンな市民憩いの場として生まれ変わった。

(2) 土地の形状とその地質

岩西校区は北に柳生川支流の殿田川、西口町の台地と東幸町大山の台地を挟んで長三池に流れ込む水神排水路、同町JR北の長山の台地（いずれも標高30m）との間を流れる長三排水路の二つの水路があり、起伏に富んだ土地となっている。この水路沿いの土地は古く、多くの動植物が生息した湿地であった。

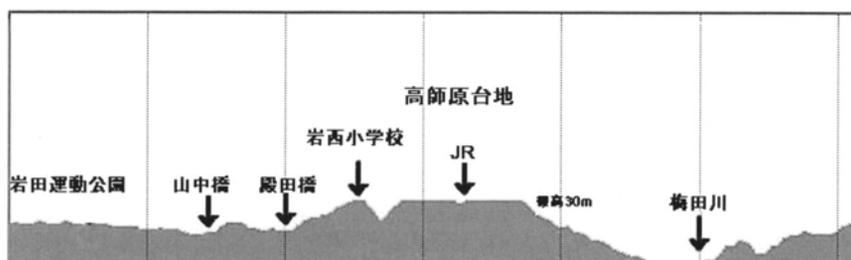
また、岩屋山を造る岩石は、2億～2億5

千万年前に海の中に砂や放散虫の死がいなどが堆積してできたものである。石巻山や岩屋山や蔵王山を作っている地層とともに秩父中古成層とよんでいる。この秩父中古成層の堆積岩類は、火山灰が堆積した輝緑凝灰岩や放散虫の死がい堆積したチャート、さんごなどが堆積した石灰岩、砂や泥が堆積した砂岩や泥岩・頁岩などで構成されている。

海の中で堆積した層は、その後の地殻変動によって隆起し、雨などによる侵食作用を受け、現在見られるような地形となった。

以前、葦毛湿原のチャート層から、中生代三畳紀の年代を示す化石（2億3千万年前～1億8千万年前）が発見された。岩西校区の南の天伯原台地は岩西校区の台地が作られたよりも古い地層である。小石や砂の堆積した礫層等で、渥美層群（60万年～12万年前）と呼ばれている。礫は、天竜川沿いに分布する硬砂岩や硬頁岩、花崗岩や濃飛流紋岩などである。

しかし、ある地域では豊川の河川礫も含んでいる。このことから、豊川は更新世のある時期まで豊橋の現市街地を通りぬけ、太平洋に向かって直接流れていたと指摘している学者もいる。その後、渥美半島がもり上がり天



岩西校区の南北断面 標高30mの高師原台地上に広がっている。

伯原の台地が高くなるにつれて、豊川はより低い三河湾に流れるようになった。

岩西校区の台地をつくっている層の一部は、ひょっとすると渥美層群に入るとい説もある。

天伯原礫層と高師原礫層の境は定かではない。

2 土地のようす

(1) 高師原台地

岩西校区は、人口（8,965人 3,246戸/平成12年10月現在）、豊橋駅から南東約4.5kmの高師原台地に位置している。東海道本線、東海道新幹線と国道1号線に囲まれ、西には幸公園・長三池、豊橋市街へ自動車であれば10分以内という通勤適地である。そのため、市街区域に指定された北東部と北西部では住宅化が進んでいる。

しかし、戦後開拓がすすめられるまでは西口町や岩屋町には荒地が多く、住居は点在していた。

東幸町あたりはところどころに20～30年生のマツが見られ、下生えにはササが多いやせた土地であった。西部よりのところは裸地状のところもあった。土壌の大部分は、黄褐色ないし褐色をしており、酸性の強いものであって、夏の強い雨による侵食、冬の「空風」による風化分解がはげしく耕地としては適さない土地であった。

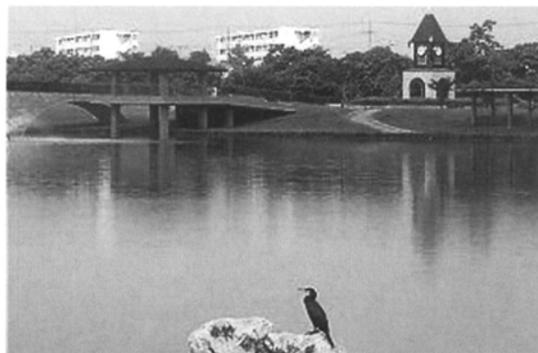
また大小の川は洪積台地を水源とする中河川で、地下水も飲料用程度であって、畑地灌漑に十分な水源は存在しなかった。

そのため、農地としては放棄され、明治維新以降まで原野のままであり、明治18年（1885）になって陸軍演習地に指定され昭和20年（1945）の終戦まで使用されてきた。

(2) 長三池

貯水量約95万t（満水時）であるこの池は豊橋一大きな池である。南側は東幸町字長山に対岸し、南西は東海道本線に接し、また、西側はつつじが丘校区、北東側は西口町と4町に囲まれて、ヘチマ形に東西に長く周囲約2kmもある大池である。明治以前からあったと言われ、昔は佐藤、三ノ輪、石田村、東小池各町の稲作の大切な用水であった。

近年都市化が進んで稲作灌漑用水としての役割もなくなり、その水も今ではほとんど使われなくなっている。都市計画によって大緑地水上公園に立派に整備されつつあり、市民の憩いの場となっている。



幸公園として整備された長三池

3 土地利用



岩西校区のため池（昭和初期の地図）

標高30mの台地である岩西校区には、先人たちにより灌漑用のため池が多く造られていた。長三池のほか、既に埋められてしまった後藤池、大山津美神社横の座頭池、給食センター北の由三の池があった。小魚もたくさんいて、子どもたちの遊び場にもなっていた。

(1) 生活とくらし

① 校区にあるいろいろな施設

岩西校区にはたくさんの人々が住んでいる団地や福祉施設が多くある。

ア 東部地区市民館

校区の人々の憩いの場として利用され、市民館独自に習字や料理教室などの講座が開かれていて、学習の場ともなっている。多くの人々が集まって話し合うことができる広い部屋もあり、災害時には避難所としても利用される。



東部地区市民館（岩屋町）

イ 西口団地

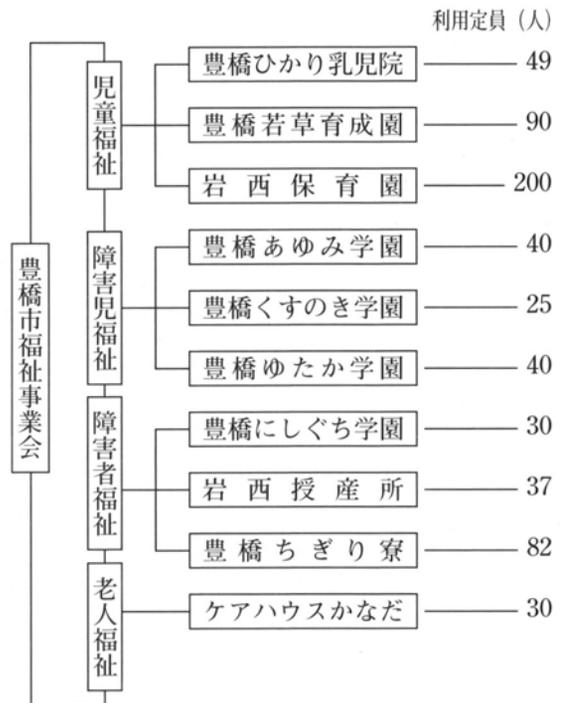
県営や市営の住宅があり、多くの人々が暮らしている。集会所があり、会合やレクリエーションの場としても利用されている。

ウ 岩屋団地

昭和46年から、建設され、現在6棟ある。そこには、200人あまりの人々が暮らしている。

エ 福祉施設

豊橋福祉事業会は、乳児から児童・障害者・老人まで広い範囲にわたった福祉施設を運営し地域社会に貢献している。老人福祉を除いて全て岩西校区内で福祉活動をしている。



豊橋福祉事業会（西口町）



豊橋あゆみ学園（西口町）

オ 県立豊橋養護学校

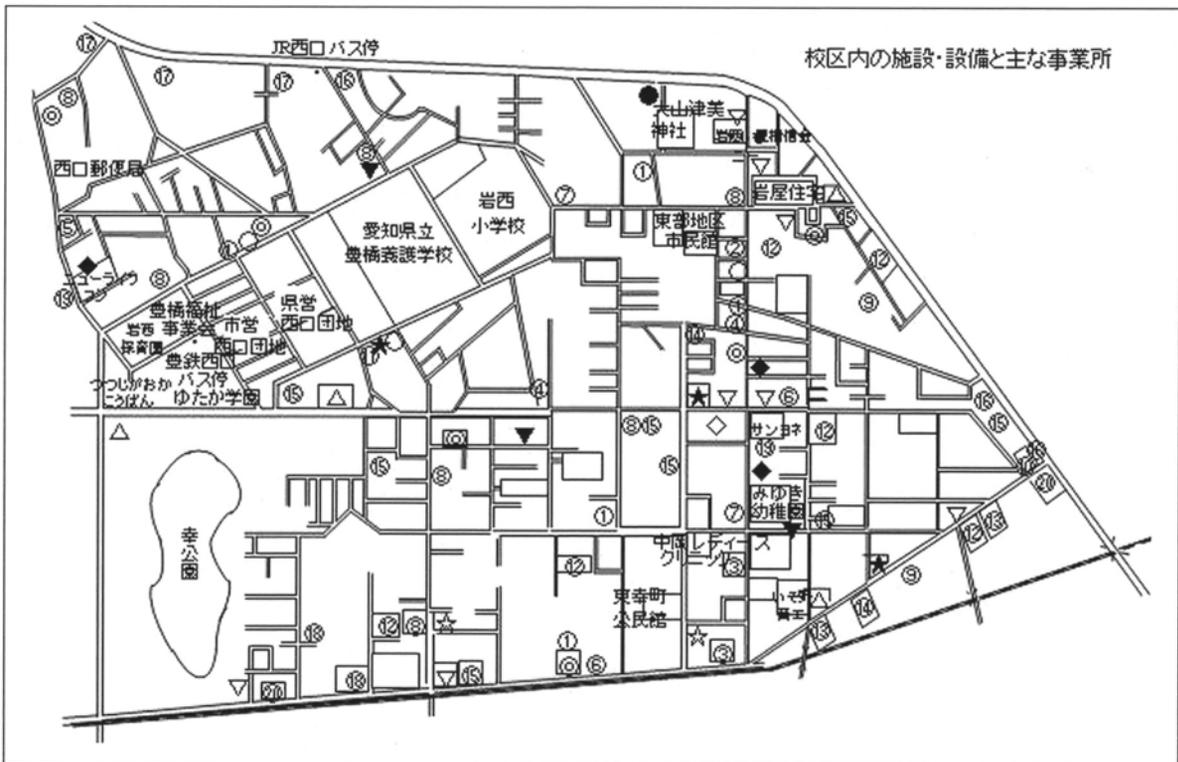
豊橋養護学校は、肢体不自由の子どもたちのための学校である。人数は少ないが知的な障害のある子どもたちも勉強している。子どもたちが活動しやすいさまざまな環境の設備が整い、必要な支援ができる学校である。

子どもたち一人ひとりの可能性を最大限引き出すよう、将来、自立していくことや社会へ参加していくための基礎となる「生きる力」をつけていくためさまざまな教育活動をしている。



県立豊橋養護学校（西口町）

② 校区内の施設・設備と主な事業所



- | | | | | |
|--------------|--------|------------|-------|-------------|
| ☆ 介護デイサービス | ● 雑貨店 | ③ 自動車修理業 | ⑨ 園芸店 | ⑮ 喫茶店 |
| ★ 園医者 | ◆ 衣料品店 | ④ コインランドリー | ⑩ 八百屋 | ⑯ ガソリンスタンド |
| △ コンビニエンスストア | ◇ 文房具店 | ⑤ 生花店 | ⑪ 薬局 | ⑰ カーディーラー |
| ▽ 飲食店 | ◎ 理容店 | ⑥ 化粧品販売店 | ⑫ 加工業 | ⑱ ペットショップ |
| ○ 寿司店 | ① 美容院 | ⑦ 家電販売店 | ⑬ 製材業 | ⑲ スーパーマーケット |
| ▼ 酒 店 | ② 洋菓子店 | ⑧ クリーニング店 | ⑭ 工務店 | ⑳ 板金・塗装業 |

岩西校区は東幸町東明のサンヨネ付近に店が多く集まっている。国道1号線沿いには自動車に関係する車の修理販売店、ガソリン販売店、タイヤ販売店等の店がある。個人の店は住宅地の中にあり町民の生活に密着している。介護デイサービス、歯医者、コンビニエンスストア、飲食店、寿司店、酒店、雑貨店、文房具店、衣料品店、理容店、美容院、塗装業、板金業、ペットショップ、コインランドリー、化粧品販売店、クリーニング店、家電販売店、園芸店、八百屋、サービス業、加工業、製材業、工務店等がありその数は増えてきている。また、ブラジルの人が多く利用する店もできてきた。自動車を利用する人のために駐車場を備えた店も多くある。



国道1号線沿いの店

③ 土地の分布

岩西校区内の土地の分布はほとんどが市街化調整区域であるため、急速に住宅化が進み、今では専業農家は数戸しかなくなってしまった。

最近住宅化が進んでいる地域は岩西小学校の東側、地区市民館の北側の地域および県立保育大学校跡地の宅地造成が完了したため住宅の建築が進んでいる。

また、東幸町のJR沿線には市街化調整区域が残されている。そこでは一般住居用の建築物は規制のため、自由に建てることができない。しかし、住民サービス業や沿道サービス業は認められ、商店や事業所が増えてきた。



土地の分布

宅地化される土地



市民館北側



岩西小東側



県立保育大学校跡地

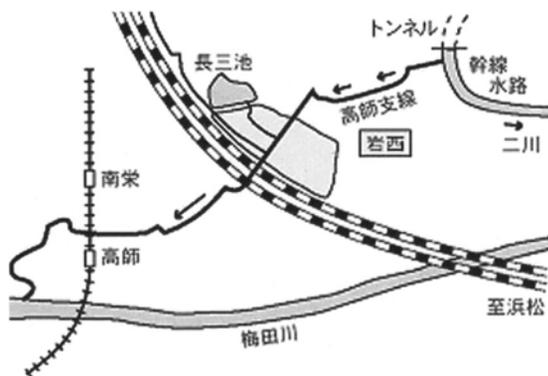
(2) 用水・上下水道

① 田畑を変えた豊川用水

農業にとって水は不可欠だが、この地域は利用できる水が少なく雨乞い神事などに頼る貧しい農業が行われてきた。その後、土木技術の進歩にともない、ため池の建設が盛んに行われた。岩西校区にも長三池をはじめ多くのため池が作られた。しかし、現在は豊川用水の完成や宅地化が進む中、その使命を終え埋め立てられてしまった池も多い。

豊川用水建設の芽ばえは古く、すでに大正末期に近藤寿市郎など先覚者の提唱に端を発し、昭和初期に国の大規模農業水利事業の調査に取上げられ一応の調査は完了した。そして国会への建議も数度にわたって行われたが、多額の建設費を要することや戦争による影響もあって実現に至らなかった。

戦後、広大な軍用地の開放により食糧増産、あるいは国土復興のため、再び脚光をあびるようになった豊川用水は、豊川水系の水資源を利用して、東三河地域および静岡県西遠州地域の農業用水・水道用水・工業用水を確保し、総合開発を図ろうとする目的で昭和24年9月、農林省（現：農林水産省）が国営事業として着手、その後、昭和36年9月、愛知用水公団（現：水資源開発公団）が、総事業費約480億円をもって昭和43年5月に完成した。豊川用水は、高師原・天伯原の開拓地を



豊川用水（高師支線）
岩西校区の豊川用水受益地

含む南部地域から、渥美半島にかけての発展に寄与した大事業であった。

② 岩西校区の上下水道

水道については、昭和36年から昭和41年の第3次拡張事業の中で岩西小学校周辺から供給が開始され、現在は校区全域で水道の受給が可能となっている。

下水道については、昭和56年～昭和57年にかけて、岩西小学校、給食調理場、県・市営西口団地等公共施設、福祉施設が公共下水道処理区域外流入許可を得て下水道に接続された。しかし、一般家庭、事業所等については今後の整備普及が待たれているところである。



岩西校区の下水道
下水管が埋設され、公共施設団地等には接続されている。

第2章 歴史と生活

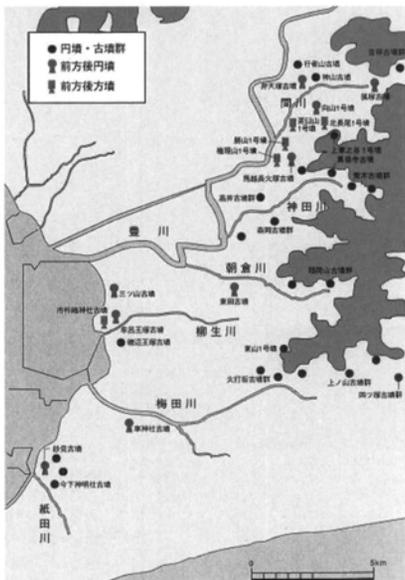
1 あゆみ

(1) 古墳時代のようにす

3世紀末から7世紀にかけて、日本各地でさまざまな古墳がつくられるようになり、この時代を古墳時代とよんでいる。豊橋市では、現在520基ほどの古墳が発見されている。この多くは、豊橋市北部から東部の山地にある群集墳である。

この付近では火打坂で22基、松明峠南側で11基の古墳が発見されている。その後の調査の結果、6世紀から7世紀にかけてつくられた円墳であることが分かっている。しかし、この中で、火打坂1号墳は長さ20mの前方後円墳である。これは最も古く、5世紀ぐらいのものと考えられている。

(2) 奈良時代から平安時代のようにす



古墳分布

8世紀から11世紀にかけて窯業（陶器づくり）の技が各地に広まり、壺や皿などの焼き物が盛んに生産されるようになった。その窯跡（古窯址）は、浜名湖西岸から渥美半島にかけて数多く発見されている。また、12世紀末の東大寺再建の時には伊良湖付近の東大寺瓦窯跡で焼かれた瓦が伊勢湾を渡って、奈良に運ばれた。



岩屋下古窯

昭和56年4月、岩屋町字岩屋下で宅地を造るため、丘を削り土地を平らにする工事が行われた。その時、造成した丘の斜面から数多くの焼き物の破片や窯の壁跡が発見された。その後の調査の結果、平安時代の古窯址であることが分かり、この遺跡は「岩屋下古窯」と名付けられた。しかし、現在では住宅が建設されているため、遺跡を見ることはできない。

また、遺跡から出土した物は、碗・皿・壺・窯道具などの破片



長けい壺

が多く、日用品として使われたものと考えられている。焼き物は、植物の灰などを水に溶かした釉薬（灰釉）をぬり、焼き上げた灰釉陶器と呼ばれ、平安時代の焼き物と考えられている。

窯は、山の斜面を利用してつくられた穴窯で、この陶器は1,000度から2,000度の高熱で焼くことができ、これまでの土器と比べてはるかに硬い焼き物をつくることができた。

しかし、鎌倉時代になるとこの地方で栄えた窯業は急速に衰えていった。

(3) 江戸時代のように

古く奈良・京都に都があった時代、多くの旅人がこの地を行き来していた。現在も東京方面と大阪方面を結ぶ交通の大動脈である国道1号線とJR東海道新幹線にはさまれた岩西校区を通勤・通学、旅行などで毎日多くの人が通っている。

江戸時代には、江戸（東京）と京都を結ぶ東海道がつくられた。この東海道は現在の飯村校区であり、国道1号線に沿っており、現在、旧道と呼んでいる。

この旧道は、60年ほど前までは松並木として多くの松が残っていた。しかし、マツクイムシの発生や沿道の開発とともに多くが伐採されてしまった。現在、高師原口付近に一本だけ残っている。

また、飯村・岩西校区には二軒茶屋、三本



残っていた松並木（飯村 昭和30年代）

木、茶屋などの東海道のなごりとしての地名が現在でも残っている。

江戸時代には、東海道（現在の旧道）の茶屋、二軒茶屋のあたりに人が住んでいるだけで、岩西校区には人は住んでいなかったようだ。このあたりは、茶屋や二軒茶屋に住んでいる人たちの畑があるだけで、原野であったようだ。岩西校区に人が住むようになったのは、100年ほど前の明治時代になってからのことである。



茶屋：江戸時代に大名や武士が休憩した茶屋がこの地区にあったことからこの地名がついたと言われている。

三本木：昔、大きな松が三本あったことからこの地名がついたと言われている。

二軒茶屋：飯村のこの辺りに二軒の茶屋があり、旅人の休憩の場所となっていたそうである。そしてその名がついたと言われている。



一本だけ残った松（高師原口）

今から1300年ほど前、行基ぎょうきという僧が千手観音を刻んで岩穴に安置したことから、人々がお参りするようになり、その後観音堂が立てられ、さらに多くの人が参拝に訪れるようになった。

また、岩山に立つ観音像は今から250年ほど前に建てられ、東海道を旅する人々の目印にもなり、往来する旅人にも親しまれていた。現在の観音像は、昭和26年（1951）に再建されたものである。

なお、現在では岩屋観音、岩屋山一带は四季を通じ市民の憩いの場として整備され、利用されている。



岩屋観音

(4) 明治から大正のようす

① 明治初期

岩西地区一带は小松の原で、家らしいものはほとんど見られなかったようだ。江戸時代に出た「東海道名所図絵」によると、「二川宿を出て岩屋を拝み、火打坂を登ると右方に小岩村あり」という記事があり、これがこの地区の集落についての最初の記録といわれている。

また、この地区における住民の様子については、大山津美神社おおやまつみじんじやに残る記録によると「明治2年頃9戸」とある。

② 明治中期

明治の中期は、西口町や岩屋町に三重県の伊勢地方・岐阜県的美濃地方から移住して来た人々が開墾して、村を作ったといわれている。松や雑木が生え、笹が生い茂り、赤い粘土層の荒れた土地であった。木を切り、根を掘り起こし、ため池や井戸を掘って荒地を切り拓いた。

③ 大正初期

大正の初め頃には、岩西町も、ぼつぼつと家が建つようになった。しかし、その大半は農家であった。

西の方を見ると当時の羽根井町辺りの製糸工場の煙突が見え、真っ黒な煙を勢いよく舞い上げていた。東の方には、岩屋山に観音様が南の太平洋を望む姿で見下ろしていた。

南の方は、見渡す限り赤土の原っぱで雑木が生い茂り、背の低い赤松が点々と生え、野ウサギやキツネ、イタチなどを見かけることができた。また、すぐそばには東海道線が通っていて、「ポッポー」と汽笛が響きわたり、夜汽車の窓から出る光がきれいであった。

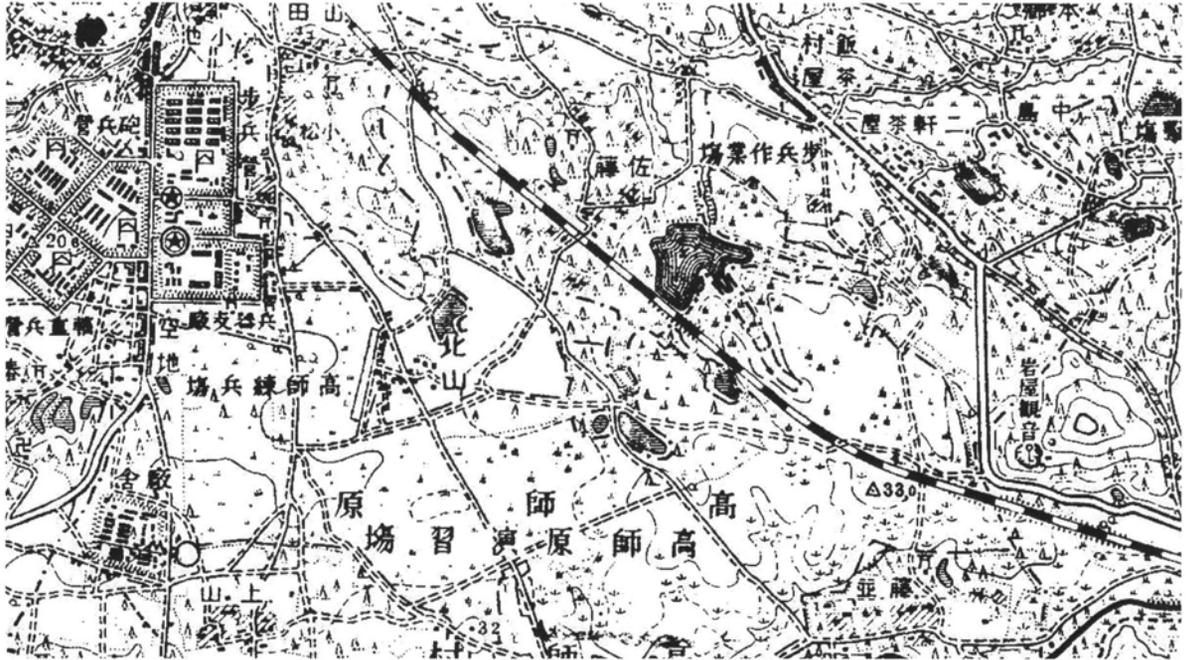
豊橋は「糸の町」として全国に知られ、家の周りには桑畑も多く、どこの家でも2階にカイコを飼い、繭まゆをつくることに精を出していた。

(5) 戦争のころ -軍用地として-

次ページの地図は大正3年（1914）の高師原の地図である。明治41年（1908）、豊橋に陸軍が置かれ、以来、高師原は陸軍が兵士の訓練をするための演習地（軍用地）となり、第二次世界大戦が終わる昭和20年（1945）まで使われていた。

① 陸軍省所轄地

西口町に残る石碑に「陸軍省所轄地（軍隊



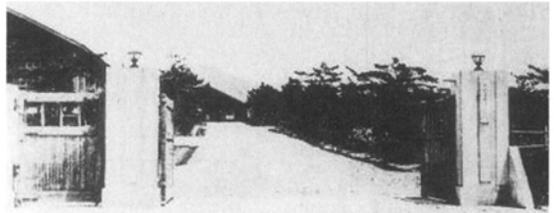
が兵舎や演習のために所有していた土地)と刻まれている。私有地と区別するために、土地の境界にこれらの石碑が建てられた。戦後、開拓を始めた当初は、たくさん見かけることができたが、校区内の宅地化が進むにつれて無くなった。



陸軍省所轄地を表す石碑

② 旧豊橋陸軍教導学校

昭和13年(1938)に豊橋陸軍教導学校の名称を豊橋陸軍士官学校と改名した。その後、第一予備士官学校と改称し、豊橋陸軍第二予備士官学校と改名した。この学校の目的は、陸軍の指揮官を養成するためであった。しか



西口校舎正門『第二陸軍予備士官学校遺稿集』よりし、昭和20年(1945)8月15日の終戦によりその使命は終わってしまった。

なお、戦後、敷地や旧兵舎は福祉施設の高師作業場(愛生郷)となり、その後、福祉施設や県営・市営住宅が建設された。

③ 旧陸軍のトーチカ(東幸町)



トーチカ跡

旧陸軍のトーチカ（コンクリートで頑丈に固めた防衛陣地）は、岩西に5カ所あったようである。昭和54年頃まで、東幸町の住宅の一角にひとつ残っていたが、今では残念ながらその姿を見ることはできない。

④ 岩西小学校の敷地にあった軍施設

岩西小学校開校当時には校地に多くの軍施設が残っていた。職員室前から体育館あたりには高さ15mほどの土塁に囲まれた弾薬を保管する建物があった。その盛土は学校の運動場整備などに使った。昭和39年（1964）、岩西小体育館の建設を機に、自衛隊の協力により学校敷地内に残っていたすべての軍施設は取り壊された。



残っていた軍施設の取壊し 昭和39年4月



旧弾薬庫の土塁を崩す作業をする子どもたち

(6) 戦後① ー岩西工区の開拓ー

① 開拓前的高師原

開拓前的高師原の原野は、酸性が強く植物も育ちにくく、小さな松や笹しか生えないような荒地であった。水の便も悪く、固い赤土の地面があちこちむき出しになっており、

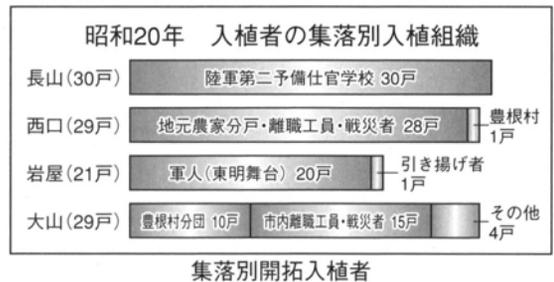
明治以来、陸軍の演習地に使われていたため、自由に足を踏み入れることができない土地であった。昭和20年（1945）に戦争が終わり、日本は食糧難となった。

また、海外からの引き揚げ者や元兵士、戦争で会社や工場が焼けてしまった人々などが開拓計画に集まり、開墾を始めた。高師原の北東半分が「岩西工区」と呼ばれていた。

現在の東幸町である。

② 岩西の開拓にあたった人たち

入植者の集落別の表から分かるように、農家の人や軍人などさまざまな人々が開拓をした。



長山地区：陸軍第二予備士官学校の軍属の人
 西口地区：地元農家から分戸、離職工員、戦災者、豊根村の人たち
 岩屋地区：怒師団の東明部隊の軍人
 大山地区：豊根村の人たち、市内離職工、戦災にあった人たち



開拓された高師原

③ 開拓が始まった頃の様子

開拓に従事された方の話によると「当時、現地に来てみると、寝る場所もなく、共同で大山津美神社の社務所を借りて、1カ月位住んだり、また近くの温室を借りて住んだりしていた。その後、元軍隊が使っていた住宅を払い下げてもらった。しかし、6坪しかなく、とても小さな家であった。

壁は、カンナくずをセメントで固めた板ですきまだらけ。屋根は、厚い紙にコールタールを塗った物で長持ちはしなかった。

開墾は、^{くわ} 鋤、^{びちゅう} 備中、かま等の道具を使う手開墾による重労働であった。地面は赤土で固く、井戸を自力で掘り、水を集めるための灌漑用の池も築いた。このような努力を重ね、やっと作物ができるようになった。」とのことである。

④ 開拓当時使った道具



開拓当時、人々が見渡す限りの原っぱを切り拓くために使用した道具である。なお、一人で1日に開墾できる広さは、15㎡から20㎡程度とのことであった。

⑤ 土地を肥やすための苦勞

作物が育ちにくい土地のため、人や家畜の糞尿を使ったり、ゴミを土に混ぜて土地を肥やしていった。また、ゴミ集めにも苦勞し、

静岡県浜松市などの都市から貨物列車で二川駅まで運び、木炭ガスを燃料としたトラックで運んでいたとのことである。



開拓当時の農家（セット住宅）

このような苦勞を積み重ね、昭和20～24年頃には、サツマイモや麦の栽培ができるようになり、昭和25～33年頃には、ハクサイやスイカの共同出荷をするようになった。また、この頃からダイコンも作られるようになり、「岩西沢庵漬（豊橋たくあん）」と知られるようになった。

昭和27年頃には開墾作業も終わり、昭和33年頃には豊かな土壌で多くの作物が収穫できるようになった。



サツマイモは澱粉に加工された

(7) 戦後② -愛生郷について-

戦時中は、陸軍省所有の陸軍演習場として使われてきた土地は、昭和20年（1945）8月15日の終戦を迎え、環境が一変してしまった。

昭和21年（1946）3月に恩賜財団戦災援護会と恩賜財団同胞援護会を組織し、戦地からの引き揚げ者、離職工員、戦災者の生活を援助するため、陸軍第二予備士官学校の旧兵舎を改造し宿所と就労の機会を与えてきた。

昭和24年（1949）3月に恩賜財団同胞援護会が解散し、その事業を財団法人恩賜財団愛知県同胞援護会へ移行、従来からの「高師作業場」から「愛生郷」へと施設名の改称を行った。

愛生郷は、戦後の社会混乱期の復興など社会における役割の一端を担い、果たしたことは高く評価できるものである。

その後、昭和39年（1964）12月、愛知県同胞援護会愛生郷の経営健全化のため、事業受入団体として、社会福祉法人設立者会議が開催され法人設立許可申請を行った。

翌40年（1965）2月に厚生大臣から設立許可をうけ、同年4月に社会福祉法人豊橋市福祉事業会が愛生郷の全施設を引き継ぎ、豊橋ひかり乳児院など8施設で事業をはじめた。

設立当初においては、施設整備5か年計画に基づき、老朽化施設の近代化、施設の統廃合を行うと同時に、施設機能の充実強化を図る一方で、地域社会の要請に応え、順次新たな施設を開設し、今では10施設を擁す東三河を代表する福祉施設として地域福祉の推進に寄与している。

同法人は「地域と共に」歩み、発展してきた。昭和45年（1970）10月から各施設が地域に開かれた施設を目標に「福祉まつり」を行い、各施設と地域住民との交流を行っている。



福祉の像 福祉事業会

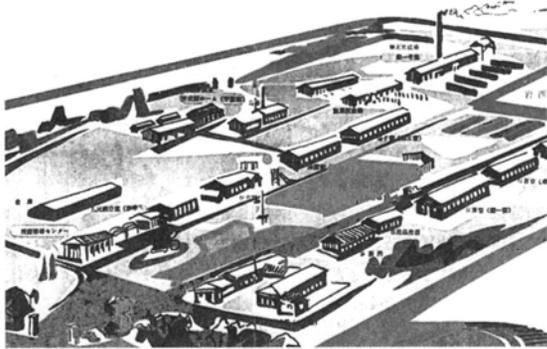


豊橋あゆみ学園



西口住宅

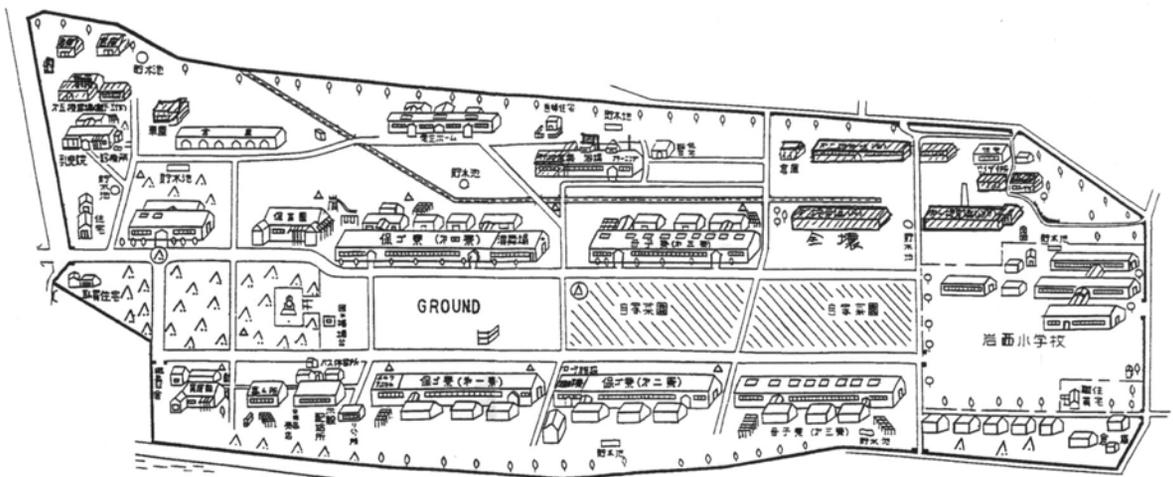
旧軍用地は教育・福祉・住宅地として整備された



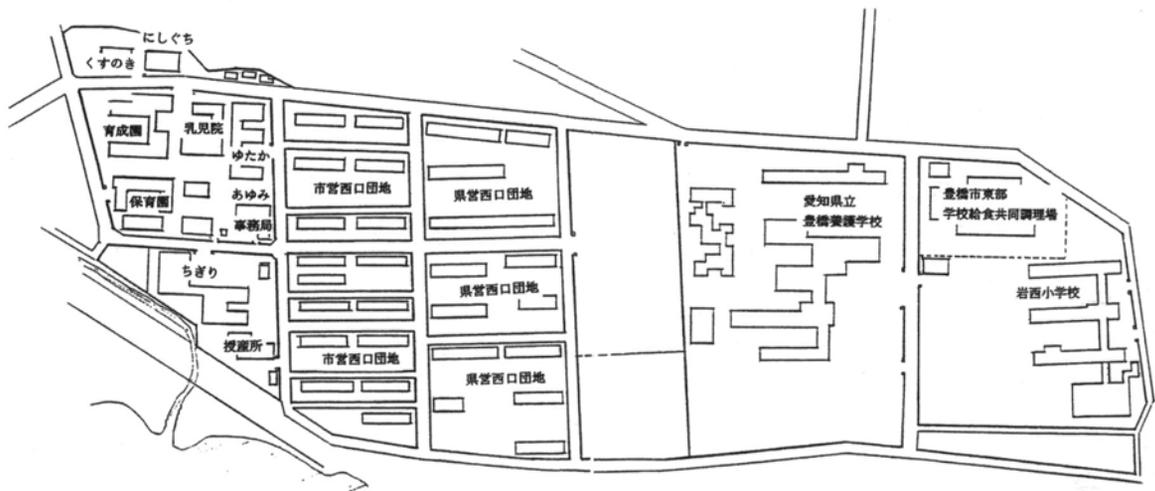
昭和35年当時のようす（鳥瞰図）



長三池より見た豊橋第二予備士官学校



戦後（昭和30年代）、愛生郷時代のようす



現在のようす

2 校区の活動

(1) 岩西校区総代会

岩西校区は昭和26年（1951）岩田小学校から岩西小学校分離開校、その2年後の昭和28年「町総代制」が復活、校区総代会が発足した。

岩西校区も人口が急増し、小学校の教室を増築するも追いつかず、昭和58年（1983）飯村町及び岩屋町が飯村小学校開校に伴い分離した。

その後も人口は増加し平成7年（1995）には佐藤町、三ノ輪町の各町は岩西校区から分離し、つつじが丘校区となり、併せて豊橋市立つつじが丘小学校が開校した。

現在の岩西校区総代会は、東幸町・岩西町・県営団地・岩屋住宅・西口1丁目・同2丁目の計6町内で構成されている。

校区事業の運営については、総代会（①会長 ②副会長 ③会計 ④書記、⑤監事）と各種組織団团长（①子ども会 ②体育 ③消防団 ④社教 ⑤防犯 ⑥文化 ⑦民生 ⑧更正保護女性会 ⑨小学校PTA会 ⑩民生主任児童委員 ⑪健全育成指導員 ⑫交通推進委員 ⑬清掃指導常務委員 ⑭体育指導員）20名で校区運営委員会として運営にあっている。

校区行事の主たるものには次のようなものがある。

- | |
|----------------------|
| ① 校区予算・決算審議会 |
| ② 東部地区市民館運営委員会 |
| ③ 校区新旧運営委員顔合わせ会議 |
| ④ 校区青少年健全育成会・校区パトロール |
| ⑤ 校区体育大会 |
| ⑥ 東部地区市民館まつり・校区文化祭 |
| ⑦ 校区防災訓練 |
| ⑧ 校区成人式 |
| ⑨ 消防団結団式 |
| ⑩ 岩西小学校行事参加 |

各種組織団体における事業については、年度当初事業計画を立て、これに基づき計画的

な事業及び行事の取り組みを行っているところである。

校区運営経費については、校区を構成する6町内会の世帯人員に応じて各町内会から校区負担金として校区総代会に納入され、各種組織団体には例年4月に行われる「校区予算審議」を経た後、各団体運営費を定期的に振り込み、年間を通じた事業活動経費として活用している。

(2) 子ども会の取り組み

岩西校区子ども会は、岩西町、東幸町、西口1丁目、西口県営団地、岩屋住宅、若草育成園の6単子により構成されている。

平成17年度の子ども会の取り組み状況について紹介する。

① 校区フットベースボール大会

平成17年（2005）の大会は5月28日(土)、岩西小学校グラウンドにて開催した。参加チームは、男子が岩西町、東幸町（A、Bチーム）、西口町・西口県団、若草育成園の5チーム、女子は岩西町・東幸町、西口町・西口県団、若草育成園の4チームが参加し、7月のブロック大会出場をめざし熱い戦いが行われた。

各参加各町では、役員が中心となり、選手となった子どもたちを4月下旬から5月中旬にかけての土曜日、とりわけ大会1週間前には毎日、各町熱のこもった指導をした。

平成17年度の結果、男子は東幸町、女子は岩西町がそれぞれ優勝し、同年7月の第1ブロック大会出場を決めた。

② 第1ブロック・フットベースボール大会

第1ブロックは岩西校区をはじめ、つつじが丘、飯村、二川、二川南の4つの校区により構成され、持ち回りでブロック大会を開催することにより各校区間の子ども及び役員の

親睦を図っている。

なお、平成17年度は、このブロック大会の幹事校区が岩西校区となり、校区大会の取り組み以上に役員一同緊張した記憶がある。

さて、この第1ブロック大会は7月3日(日)に行われた。大会前日は雨が降るなど大会が開催できるか非常に心配であった。しかし、当日は雨の心配もなく予定どおり行うことができた。



平成17年度子ども会フットベースボール大会

試合の方は、4校区(岩西、つつじが丘、二川、二川南)から男女各1チームが参加し8月の球技中央大会への出場権獲得に向け熱い試合が繰り広げられた。

試合結果は、昨年男女ペア優勝した岩西校区の頑張りも空しく、今回はつつじが丘校区が男女ペアで優勝し、大会の幕を閉じた。



ブロック大会出場男女校区代表チーム

③ 校区綱引き予選大会

例年、豊橋市総合体育館にて行われる「豊

橋市子ども会綱引大会」に出場するため、平成17年12月3日(土)に小学校体育館にて各学年から補欠を含め6人を選抜するため、各学年参加者全員の総当たり戦を行った。

なお、本大会前日(1月14日)に最終総合練習に子どもたちは参加し、予選会同様、指導者から優勝をめざした指導を受けた。



予選会の様子

④ 第17回豊橋市子ども会綱引大会

平成18年1月15日(日)に豊橋市総合体育館にて豊橋市子ども会綱引大会が行われた。参加した子どもたちのがんばりで素晴らしい結果が残せたことは嬉しいことである。

なお、試合結果は次のとおりである。年少男子(1~3年生)は、第3位②ジュニア男子(4~6年生)は、準優勝しかし、女子年少、ジュニアは健闘したものの、入賞出来なかったのが残念であった。



年少男子(1~3年生)第3位



第17回豊橋市綱引き大会 ジュニア男子（準優勝）

⑤ お楽しみ会

2月11日(土)に小学校体育館にて校区お楽しみ会を行った。多くの子どもたちが参加し、ビデオ鑑賞、綱引き大会報告等短い時間であったが楽しく過ごすことができた。

(3) 校区530運動の取り組み

昭和50年（1975）、豊橋市は全国に先駆け、530運動を始めた。校区内の各町も積極的に参加し現在に至っている。



清掃風景

① 定期的な校区530運動

岩西校区各町とも、毎月第3日曜日を「530運動の日」と定め、組単位等で清掃活動に取り組んでいる。作業内容は、清掃・除草・公園内の樹木伐採・道路側溝内の汚泥除去である。この運動を通じ、各組単位での地域住民のコミュニケーションを図ることが出

来、非常に有意義なものとなっている。

② ゴミステーションの管理

ゴミステーション適正管理・清潔保持のため、毎週のゴミ持ち出し日には各町の清掃指導員、衛生指導員のもとに順番でゴミ等の飛散防止ネットをかぶせたりするなど日頃からゴミ集積場の衛生管理に努めている。

③ 校区一斉530運動

毎年11月第3日曜には、「家庭の日」（東部中学）として、校区民一斉に530運動を実施している。大人から子どもまで参加し、校区民のふれ合いや連携をもとに環境美化の取り組みを行っている。

(4) 青少年健全育成委員会の取り組み

岩西校区内に住む児童・生徒の健全な育成を図り、非行化を防止する健全環境づくりのため、岩西校区青少年健全育成会、東部中学校区青少年健全育成会と連携し、児童・生徒を取り巻く社会環境の浄化等の事業に取り組んでいる。



① 防犯ブザー等の配布

平成17年5月下旬において東部地区では、刃物を持った男に小学生が追いかけて回される事件や小中学生の誘拐を装った振り込め詐欺事件が多発した。

このため、校区健全育成会では小学校から事件の報告を受け、岩西校区総代会として小学校全児童に「防犯ブザー」の配布、更には校区の見回りや交通立番に使うための「ベスト」を寄贈した。



防犯ブザー贈呈式

② 校区内安全パトロールの実施

校区内の交通事情を把握しながら校区内を巡回することにより、子ども、保護者、校区民の交通安全意識を高め、同時に危険な箇所及び防犯上心配な場所等を把握するため、学校関係者、PTA役員、育成会役員により構成されたパトロール隊が校区を巡回している。

なお、平成17年度の実施状況は、夏休み期間は6回、冬休み期間は2回の都合8回実施した。

また、校区民の協力のもと、校区内を車で走るときには、「校区パトロール中」のステッカーを付けて常時児童・生徒や地域に注意を呼びかけている。

③ その他

気持ちよいあいさつのあふれる校区をめざして、学校・地域住民、さらには校区各町が一丸となり「あいさつ運動」を繰り広げている。また、東部中学校と東部中学校区内にある3つの小学校が共同して「あいさつサミット」を開催し、生徒・児童の交流を深めた行事に取り組んでいる。



(5) 校区防災訓練の取り組み

豊橋市から「地震防災ガイドブック」、「防災マップ」等多数の冊子が各家庭に配布されている。

岩西校区における防災訓練は、毎年10月最終日曜日に行うようになり、すでに20年来継続されている校区の主要行事の一つである。訓練は、校区消防団が中心となり次のような参加型の訓練を行っている。

1. 防災無線通信訓練
2. 初期消火訓練
3. 煙体験室による体験
4. 「グラット号」による地震体験
5. 防災ビデオ及び防災に関する講話

この訓練には、各町内会の子どもから大人までの積極的な参加があり、防災に対する再認識をする上で有意義な総合訓練である。

なお、平成14年（2002）4月に豊橋市が地震防災対策強化地域に指定され、より一層の災害時体制づくりが必要となり、平成17年（2005）12月に行政、市民館職員、地元自主防災会の三者合同による防災研修及び避難所資機材取扱訓練に参加し、「避難勧告等の判断・伝達方法」「避難所での発電機・投光機取扱」の訓練を受けた。

なお、岩西校区指定避難所は次のとおりである。

- 第1避難所・・・東部地区市民館
- 第2避難所・・・岩西小学校



防災訓練

(6) 校区体育委員会の取り組み

① 体育祭

一時中断していた校区体育祭は20年ほど前から復活し、校区民の親睦を深める校区行事として定着している。

校区体育祭は、校区体育委員会が中心となり例年9月第1日曜日に行っており、平成17年度は9月3日(土)に行い、就学前児童による風船ゲーム、年齢別等対抗リレー、ムカデ競争等さまざまな種目に各町のスポーツ自慢が積極的に参加し、親睦を深めることもできた。

体育祭のもう一つの楽しみは、参加者全員による「ピンゴゲーム」である。大人も子どもも一喜一憂する姿はほのぼのとした光景である。

② その他のスポーツ活動

体育委員会においては体育祭の他、年間を通じ小学校のグラウンド及び体育館を利用して「インディアカ大会」、「ソフトバレーボール大会」、「ソフトボール大会」、「卓球大会」等開催し、多くの校区民が参加し交流を図っている。

今後も大人から子どもまで誰もが参加でき、スポーツに親しみを感じていただけるようなものにしていきたいと考えている。

(7) 社会教育委員会の取り組み（成人式）

岩西校区成人式は、新しい門出を祝うにふさわしいムードの中で毎年式が進められている。

この行事は、校区総代会の協力はもとより社教会が中心となり取り組んでいる。式の運営は、司会から閉会までの全てを新成人が担当を決め、自由なスタイルでの式典となっている。また、式には来賓として小学6年当時お世話になった恩師も参加され、式典後恩師、友人を囲んだ懇親会を行っている。

他都市では、成人式で酒を飲んだり、爆竹を出したり式を妨害するなどの報道がされている。しかしながら当校区で行う成人式ではこのような事件も起こらず、自立した規律を守る新成人を、校区として頼もしく感じるものである。



平成18年成人式

(8) 文化協会の取り組み

岩西校区文化協会では、東部地区市民館と共同して校区文化祭を毎年10月最終日曜日に開催している。

当日は、校区内自主グループによる作品展、カラオケ大会、岩西小学校児童及び東部中学校生徒による作品展示、岩西小学校PTA作品展を行い、日頃の成果を発表し校区内のグループ活動を紹介している。

毎回、数多くの素晴らしい作品が持ち込まれ参加者の目を楽しませている。



平成17年の市民館まつり

3 岩西校区の人口及び産業

(1) 岩西校区における人口推移

岩西校区における人口推移は平成7年、12年「国勢調査」及び平成17年10月1日現在の人口によっても明らかのように、増加傾向にあることが分かる。

この原因として、「宅地化の進行」及び「外国人の増加」が主たるものであると思われる。

区分	内訳	平成7年	平成12年	平成17年
豊橋市	総人口	352,982	364,868	379,787
	総世帯	115,075	124,615	141,555
岩西校区	人口	8,751	8,967	9,466
	男	4,258	4,361	4,661
	女	4,493	4,606	4,805
	世帯数	3,033	3,233	3,986

資料：平成7年、12年は国勢調査数値、平成17年数値は10月1日現在
豊橋市及び校区における人口推移

(2) 外国人登録者の推移

① 豊橋市の外国人登録状況

豊橋市における、外国人登録者数はブラジル国籍の方の登録が急増し、平成16年度末に

おける総登録者数18,069人のうち11,449人と実に63%を占めている。

区分	総数	ブラジル	韓国 朝鮮	フィリ ピン	中国	ペルー	その他
昭和24年	2,269	0	2,222	0	39	0	8
昭和63年	3,529	98	2,868	55	385	4	119
平成2年	6,157	2,213	2,847	93	552	224	228
平成5年	7,825	3,281	2,788	257	711	458	330
平成10年	11,882	7,093	2,462	361	690	688	588
平成15年	16,776	10,529	2,125	1,277	903	894	1,048
平成16年	18,069	11,449	2,031	1,547	970	962	1,110

外国人登録者国別人員の推移

② 岩西校区における外国人の状況

岩西校区における外国籍を有する方の居住実態は把握できないものの、小学校に通う児童の数から推測する限りにおいては増加傾向と考えられる。

校区としても、ブラジル等の国籍を有する方々と校区民との共存・共栄を図るための取り組みを考えていく必要がある。



外国人向 商店

(3) 岩西校区における産業の推移

① 校区における産業構造の変化

岩西校区の産業構造を「事業所・企業統計調査結果報告書」から見ると、昭和50年調査においては、農・林・漁業を営む事業所が2事業所あった、しかし昭和61年調査では姿を消してしまった。

また、昭和50年に製造業事業所が107事業所あったが昭和61年調査では約5割ほどの事業所が姿を消してしまっている。

昭和61年及び平成3年調査では、校区の産業構図に大きな変化は見られなかった。しかし、平成13年調査では全ての産業区分で事業所の数が減少した。

区 分		昭和50年	昭和61年	平成3年	平成13年
第1次産業	農林水産業	2	0	0	0
第2次産業	建設業	43	41	45	15
	製造業	107	57	47	19
第3次産業	卸・小売業	127	108	119	71
	サービス業	50	55	76	52
総 計		341	269	303	160

資料：事業所・企業統計調査結果報告書
産業大分類別事業所数

また、平成13年調査現在、岩西校区における主たる産業形態は、総事業所の約77%を占める第3次産業がその中心となっていることが分かる。

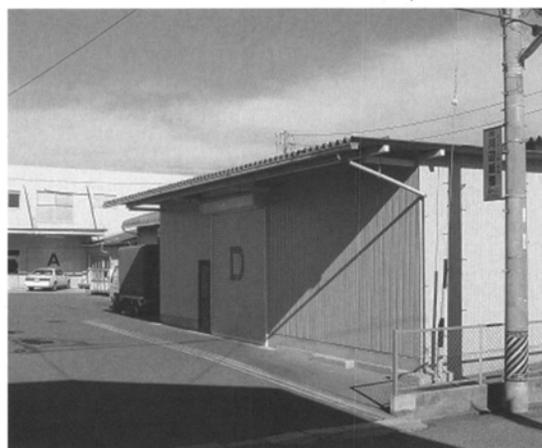
平成13年度調査によると、岩西校区の総事業所数は160であった。この事業所の開設時期を見ると、昭和40年から平成6年ごろまでは比較的多くの事業所が校区内に開設されたことが分かる。

しかし、平成11年以降校区内における新規事業所開設は極端に減少している。

事業所総数	昭和29年以前	昭和30～39年	昭和40～49年	昭和50～59年	昭和60～平成6年	平成7年～10年	平成11年	平成12年	平成13年
160	2	6	37	48	37	16	1	4	3

※総数に開設時不詳を含む。
資料：平成13年事業所・企業統計調査結果報告書

事業所の開設時期別事業所数



東幸町の紙器工場



大型商店

第3章 教育と文化

1 学校教育、保育

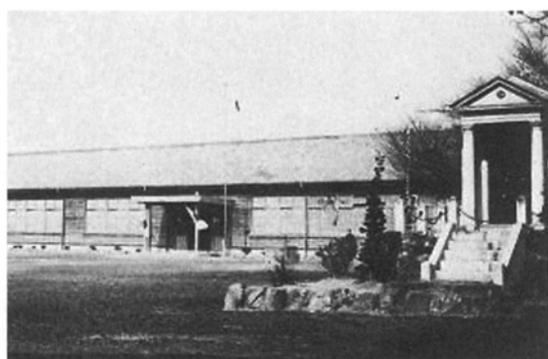
(1) 小学校の移り変わり

① はじまりから誕生まで

学校ができる前 江戸時代の子どもたちは、寺子屋にかよって「読み、書き、そろばん」の勉強が中心であった。江戸時代後期には全国で1万以上の寺子屋があったといわれていた。

岩西校区の子どもたちは吉祥寺（飯村北四丁目）や清晨寺（飯村南二丁目）といった寺で和尚さんから勉強を教えてもらうだけでなく、農民や神主といった職業の人が開いた寺子屋で指導してもらったという記録が残っている。

学校のはじまり 明治4年に文部省が設置され、明治5年に学制が発布された。



戦前の岩田小学校

この学制によって、明治6年にまず小学校設立に向けて、愛知県内を10の学区に分けた。このあたりは当時渥美郡と宝飯郡のグループに入り、第10中学区となった。愛知県内で600の小学校の設置を目標としていたので、この第10中学区では56の小学校を設立するこ

とが求められ、ぞくぞくと新設小学校が設立された。この岩西校区も当時は三ノ輪村と呼ばれていたが明治6年に「第6小学至誠館」としてスタートをきった。その後も、三ノ輪学校と飯村学校とに分離したり、さらに岩田学校として統合されたりしていた。

岩西小学校としてのスタート この地域は、軍隊が練習するための土地だった。鉄砲の弾が飛びかい、軍馬が走りまわっていた。

昭和21年、第2次世界大戦が終わって、広大な高師原へ開拓農民としてたくさんの人々がやってきた。



昭和26年 開校当時の岩西小学校

私は、明治43年西口町の今の住所に生まれました。

そのころ、みんな岩田尋常小学校まで、4キロの道のりを通いました。学校までは、田んぼが多く、冬になると西風が吹き、氷が毎朝はって、今より寒かったです。カバンもなく、本をふろしきに入れて、腰に巻いて通い、1年生はたいへんでした。

② 学校名の移り変わり

明治6年10月	第2大学区第10中学区第6番 至誠館
明治8年3月	第6番小学三ノ輪学校
明治9年4月	第20番小学三ノ輪学校と変更
明治12年6月	第21番小学飯村学校開校
明治17年5月	渥美郡第16番小学飯村学校となる
明治20年4月	渥美郡尋常小学岩田学校となる
明治22年10月	渥美郡豊岡村立豊岡尋常小学校となる
明治29年	豊岡村立豊岡尋常高等小学校となる
明治40年	豊橋市立岩田尋常高等小学校となる
昭和16年4月	豊橋市立岩田国民学校と変更
昭和25年9月	豊橋市立岩田小学校岩西分校となる
昭和26年4月	豊橋市立岩西小学校として開校する

50周年記念誌より

岩西小学校が誕生するまで、いろいろな学校があったことがわかる。平成12年岩西小学校は、創立50周年をむかえた。

誕生までこの地域は、軍隊が練習するための土地であった。銃を持った兵士や軍馬がいた。

昭和21年、戦争が終わって、広大な高師原へ開拓農民として多くの人々がやってきた。人々は力を合わせて仕事をし、「新しい町づくり」に取り組んでいった。岩西の地にふるさとを作ることが人々の願いであった。

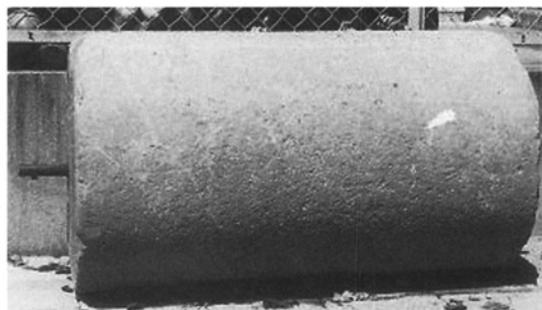
当時の子どもたちは、片道6kmほどの道のりを岩田小学校まで通学していた。雨の日などは、どろどろの道になり、小さい子たちにとっては、とても大変なことだった。岩西の地に学校をつくってほしいという人々の願いがかなえられて、昭和25年9月、岩田小学校の分校として、旧軍用地の一角に岩西小学校が作られた。1年生から3年生までが9月から通った。昭和26年4月、市内38番目の小学校として開校し、学級数は12であった。

現在、ローラーは学校建設の思い出の碑として、放送室前に残されている。

ローラーの思い出

開校したばかりの運動場は、運動ができる状態ではなかった。そこで、校庭整地のために、岩田小学校から石のローラーを譲り受けることになった。岩田からの道々、ローラーを引っ張ってきた。当時は、砂利でたいへん苦勞をした。途中高山あたりで動かなくなり、近くで農耕をしていた飯村の人が、牛を使って学校まで引っ張ってくれた。

このローラーは大活躍して校庭をきれいにしてくれた。



今も残っているローラー 当時の姿

建設の石

昭和二十五年、学校建設の使命感と情熱に燃えた幾多の校区の人々、大勢の児童たちによって、力のこもった網に引かれ、このローラーは回りつづけた。そして、荒地に校舎の礎が築かれ、運動場が開かれた。歲月は流れて三十年、創立記念の築山と送るにあたり、近代化され移り変わりゆく学校の一角に歴史を伝え、往事を語るこの建設の石に、その業績をたたえ、果敢の発展を記念するものである。

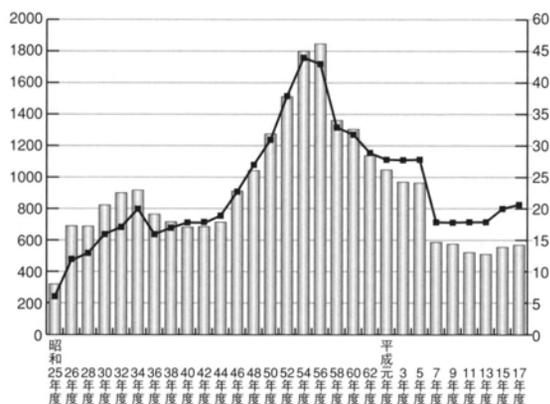
昭和五十五年十二月
岩西小学校同窓会・PTA

建設の石<ローラー>碑文
(昭和55年12月同窓会 PTA)

(2) 岩西小学校のあゆみ

① 増え続けた児童数

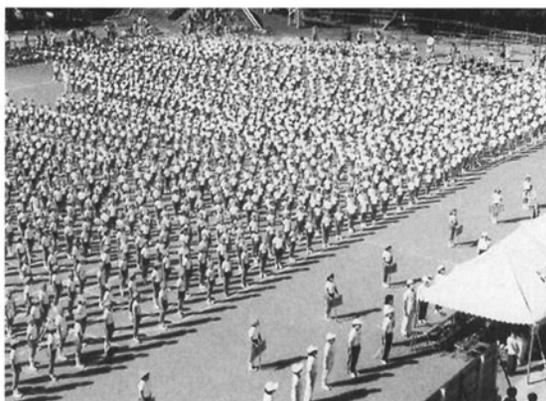
以前は通学区域が、飯村、岩屋、西口、三ノ輪本興寺、佐藤、高師、東幸町となっていた。年々宅地化が進み、昭和50年代は市内でも1、2を争うマンモス校になり、児童数がおよそ1,900人にもなったことがあった。昭和56年のころだ。



ふえ続けた児童数

教室も開校の年の15教室から49教室になり、運動場も少し広がった。

あまりに人数が多かったので、運動場で遊ぶことのできる曜日が学年で決められていた。また学芸会も2日間かけて行われていた。



校庭いっぱいに広がる運動会

② 飯村小学校、つつじが丘小学校開校

ア 飯村小

飯村校区では、土地区画整理事業にともなう住宅環境整備により、田園地帯が一変し、新興住宅地帯として生まれた新しい街である。

昭和58年、岩西小学校から分かれ、約500名の子どもたちが飯村小に通うことになった。

豊橋市47番目の小学校の誕生である。

この年、児童数が減って役割を終えた最後の木造校舎が取りこわされた。また、うさぎ小屋や北グラウンドの遊具や砂場など、新しい施設がたくさんできた。



古い木造校舎を取り壊し 広がった運動場

イ つつじが丘小

平成6年、岩西校区西の佐藤町一帯では、20年程の年月をかけた福岡東部土地区画整理事業が完成期を迎えようとしていた。

その地域のほぼ中心に新設のつつじが丘小学校ができ、平成7年度開校した。

これにより、岩西校区であった佐藤町・三ノ輪本興寺西口町元屋敷が分離することになった。分離する児童は358名で、全校児童数の38%にも及んだ。

つつじが丘小へは、岩西、栄、幸、向山、松山の5校区から子どもが通学することになり、岩西小で3月にお別れ会が開かれた。

お別れの式を担当した先生の話

体育館でお別れの式。代表の子が作文を読みました。お別れのことは、ひとつひとつが心にひびきます。そして、みんなで歌う最後の岩西小校歌。

歌声にすすり泣きがまじり、最後はなみだでお別れになりました。



新設つつじが丘小に行く友達とのお別れの式

③ 岩西小学校校舎の移り変わり

昭和25年に建てられた当時、校舎はすべて木造であった。次々と建てられた木造校舎も昭和35年の伊勢湾台風では大きな被害をうけた。

校庭東南のすみ（現在の体育館のところ）に戦争中の弾薬庫などの建物が残っていた。昭和37年、自衛隊の力をかりて整地し、校庭を広くした。また、児童数の増加に伴い新しい校舎も増築された。

昭和45年、市内でも早い時期に体育館の建築が始まった。新しい体育館でのびのびと運動ができ、楽しい集会活動もできるようになった。

木造ばかりであった校舎だったが、待望の校舎の鉄筋化は、昭和46年に始まった。

また、プールがなかった当時は、夏休みに海や川、浜名湖や大塚海岸の海水浴場にてかけ、臨海学習（水泳訓練）を行った。



懐かしい木造校舎（昭和29年）

子どもの数が増えていっても、プールがないのは、大きな悩みであった。やがて、子どもたちや地域の人々の願いがかなって、昭和48年に待ちに待ったプールができた。



鉄筋校舎（平成17年）

校舎の移り変わり (年度)

昭和25年	木造校舎（管理室と6教室）と給食室ができる。
昭和26年	木造西校舎（3教室）、北校舎（6教室）ができる。
昭和34年	南2棟できる。
昭和46年	体育館完成する。南新校舎 6教室できる。
昭和48年	南新校舎3教室できる。プール完成。
昭和49年	南新校舎3教室できる。
昭和50年	北新校舎3教室できる。
昭和51年	北新校舎9教室できる。
昭和53年	中新校舎6教室できる。
昭和54年	中新校舎11教室できる。
昭和56年	木造校舎とりこわし開始。
昭和57年	木造西校舎とりこわし。正門、西門できる。
昭和58年	木造校舎全部こわす。運動場広くなる。
昭和60年	小鳥うさぎ小屋つくる。
平成2年	木の遊具できる。
平成10年	南校舎大規模改修工事。
平成15年	北校舎外壁塗装工事。体育館にスロープできる。

④ 外国からの友だち

ア 岩西小学校の外国人の推移

	ブラジル	ペル ル	中 国	アル ゼン チン	タン ザ ニア	インド ネシア	ルー マ ニア	バン グ ラ デ イ シ ュ	フィ リ ピ ン	ス ロ バ キ ア	韓 国	合 計
1990 8.14	1											1
1991 4.1	3											3
1991 9.1	7											7
1992 4.1	15			2								17
1993 4.1	17	2	4	3								26
1994 4.1	16	3	7									26
1995 4.1	26	4	8		1	1						40
1996 4.1	27	5	7		1	3	1					44
1997 4.1	44	8	7			1	1					61
1998 4.1	54	8	9									71
1999 4.1	47	5	3			2	1					58
2000 4.1	53	5	1			3	2	1				68
2001 4.1	63	5	2					1	1			72
2002 4.1	71	4	1									76
2003 4.1	83	6	1							1		91
2004 4.1	70	8	1			1		7	1	1		89
2005 4.1	65	9	2					7	1	1		85

岩西小学校の外国人の推移

イ アミーゴ（友だち）学級できる

平成2年8月、初めてブラジルから編入があり、それからブラジル人の友だちがふえていった。平成4年4月には、「アミーゴ学級」と名づけた。

その後も年々外国からの友だちがふえ、ブラジルだけでなくインド、中国、フィリピンなどからも友だちをむかえて、国際色豊かな学校になった。



みんな友だち アミーゴ学級

来日2年目の友達（6年生）の話

ブラジルから来たときにはEASという豊橋の下地町にあるブラジル人学校で勉強していました。5年生の最後に、ブラジル人学校をやめて家で遊んでいたら、父に日本の学校に入れさせられました。今は日本の学校でがんばっています。日本語もかなり分かるようになり、部活もサッカー一部に入部しました。

テストでは良い点を取るときもありますが、成績はまだまだなので勉強をもっとがんばらなければならないと思っています。

担任の先生はとても楽しいし、友だちにも助けられてとても感謝しています。

⑤ 岩西小学校開校50周年記念式典

岩西小学校が、昭和25年9月に岩田小学校の分校として開校されてから50年が経った。平成12年11月25日に、記念式典が開かれた。金管バンド・カラーガードの演奏が披露され、全校児童の元気な歌声が体育館に響きわたった。

また、50周年記念事業として、地域の方々で作られた50周年実行委員会から大きな2つのプレゼントがあった。1つめは、大人も子どもも楽しんだ「西遊記」の観劇、2つめは、学校の東側にあるレンガ造りの「はちの子ゲート」。この門の名称は、全校に呼びかけ募集して選ばれたもので、はちの子のようにみんながワイワイにぎやかに集まってくるという意味がある。この「はちの子ゲート」は、車が入りしなないため、安心して登下校できるようになった。



創立50周年記念式典

⑥ 岩西小学校の特色ある活動

ア 豊橋養護学校との交流

岩西小学校と道を挟んで隣接する豊橋養護学校との交流は、昭和57年から始まりもう25年になる。交流の内容はいろいろ形を変えながらもずっと続いているこの交流がスタートしたころは本校のプールを使った水泳によ

る交流であった。

その後、国語の授業に養護学校の子どもも参加して勉強をしたり、凧揚げや焼き芋を焼くことをいっしょにしたりして交流を深めてきている。

平成17年度は本校の4年生の児童を中心に交流活動をおこなった。

6月29日(水)に本校に養護学校の子どもたち50名ほどを招いてふれあい交流を行った。4年生の子どもたちがグループで手作りボウリングやくじ引きなどのコーナーを計画して、養護学校の子どもたちに楽しんでもらった。

また、10月には養護学校へ出かけて行って相互の交流を深めている。



養護学校の子どもたちを迎えて

イ 縦割り活動

全校の子どもたちが学年の枠を取り外してグループを作り、さまざまな活動を行っている。今のような少子化の時代だからこそ、こうした縦割りの活動を積極的に進めていく必要があると考えている。つまり今の子どもたちは異年齢の子と一緒に遊んだり、交流する機会が少ないので縦割り活動をする中で、高学年の子は低学年の子の世話をしながら高学年としての自覚が芽生えたり、また低学年はこうしたお兄さんやお姉さんの活動を見て学

ぶことができたりするよい機会となる。

4月当初、初めて顔あわせをするときは低学年の子の多くが戸惑う場面も見られるが、縦割り集会や運動会などの行事を通して仲良くなり、学級や学年とは違ったつながりがうまれている。



縦割り運動会

ウ 外国人懇談会

本校は市内でもっとも外国人児童の割合の高い学校である。外国人児童の増加に伴い、保護者に学校からの要望や保護者の疑問などに答えるためにお互いの意見交換の場が必要であると考え、外国人懇談会を実施している。学校生活のくらしや学校のきまりごとなどについて説明をしたり相談に乗ったりするだけでなく、教職員や外国人の保護者同士の交流



習字にチャレンジ

を図ったり、PTA活動への参加を呼びかけたりしている。

エ あいさつ運動

東部中学校と飯村小学校、つつじが丘小学校と岩西小学校とで「東部中のわ」を作り、いろいろ連携をしながら活動を進めている。特にあいさつ運動は毎年4校が連携をとって積極的に活動している。本校ではモアイ委員会が中心になってあいさつ運動を月の終わりの週で定期的実施している。平成17年度からはこの運動に校区内の3つの高齢者会（老人会）の方々にも賛同していただき朝の交通立ち番と含めながらあいさつを呼びかけている。こうした運動が校区全体に広がるよう、今後も継続していく。



高齢者会による「あいさつ運動」

(3) 中学校

① 豊岡中学校の開校とあゆみ

ア 終戦後の教育

昭和20年8月15日、ポツダム宣言を受諾、無条件降伏によって、本当に悪夢のような戦いは終わった。

学校は9月から再開された。岩田小学校は幸い戦火をまぬがれ、すぐ授業をはじめることができた。しかし、市内の焼失した学校の

中には、神社・寺院あるいは民家の一隅を借りての分散授業や二部授業の学校もあった。市内で戦火にあった人たちは知人を頼って転出する人が多く、岩田小学校にもこうした子どもが転入してきたため、学級数が増加した。

当時、衣食住は最低の生活であった。食糧不足により、授業は午前中が多く、午後は食糧増産のための手伝いをした。衣服は質素で、下駄かわら草履をはき、運動靴は配給制であった。

教科書は、すみでぬり消した教科書や、更紙をプリントしたようなものを教科書がわりに使用した。鉛筆一本でも大切に使い、長さが3cm位になるまで工夫して使った。新しい教育は、昭和22年3月に公布された教育基本法によって具体的な方向と内容があたえられた。

イ 鎮守の森を中学校に

当時の旧青陵中学校区はあまりにも広く、生徒は毎日が遠足で、これではかわいそうということで、榎島悦司氏（岩田校区総代会長）を中心に岩田八幡宮を琴平様に合祀して、その跡地を学校の敷地として市へご寄附いただいた。



旧八幡神社（現豊岡中玄関付近）

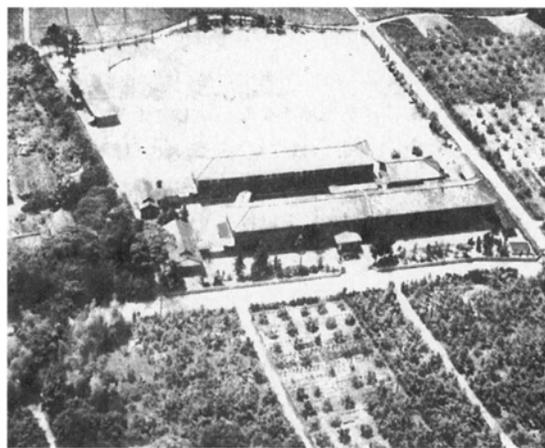
敷地内の大木の抜根作業も、大変な仕事であった。整地は、各町に割り当て、勤労作業

によって進められた。解体作業中、塀の石積の中に十数匹のまむしがいたり、本殿の床下に狸の糞が沢山あったりして、とにかく難作業であったようだ。

ウ 開校

昭和25年4月、待望の豊岡中学校が開校した。

「青陵中学校から分かれて、木の香りの新しい新設校に移ってきた。引越しの日は、よい天気だったようだ。机、腰掛けその他の学校の備品を生徒と先生が共にもって、青陵中から歩いて運んだ。その時の長蛇の列が目には浮かぶ。重い物は車で運んだように思うが、楽しい引っ越し風景であった。緑に囲まれた静かな田園の中の新校舎に入って、窓からパノラマのように美しい風景を眺めたとき、思わずきれいだと言って喜んだ。職員は13名で、純朴、勤勉な生徒と共に、新設校建設の希望に輝く日々が始まった。」と開校当時の様子を職員が記している。



開校当時の豊岡中学校

エ 作業の日々

学校備品も教具も少なく、不自由なことが多かった。八幡神社の境内だった運動場は、水はけが悪く、雨の日はひどいぬかるみになったそこで、運動場を掘り返し整地したり、

木の根を拾ったりするのが、職員生徒の仕事となった。

「体育大会をめざし、校庭のトラックづくりが全校生徒の手で始められ、一周150mの走路を全校12組別に分担を区切り、各組競って作業に汗を流した。作業は鍬、備中で50cm近く土を掘り起こしたが、木の根があるので大変な仕事だった。掘り返した土はふるいにかけてより分け、石、石灰ガラ細かな土の順に穴に埋め、なんとかして走路を完成することができました。」と、当時の生徒が話している。

「それから約5カ月間、朝少なくとも1時間前には来て、作業を開始し、昼休みも、放課後も特別な仕事がない限り頑張りました。

しかし、一人として、ぐちを言う者もなくむしろ、この苦しみを楽しみに代えて笑顔で頑張ったことは、本当にすばらしい事だと思いました。」と、当時の先生も語っている。



豊岡中体育大会風景（昭和27年）

② 豊岡中学校の今昔

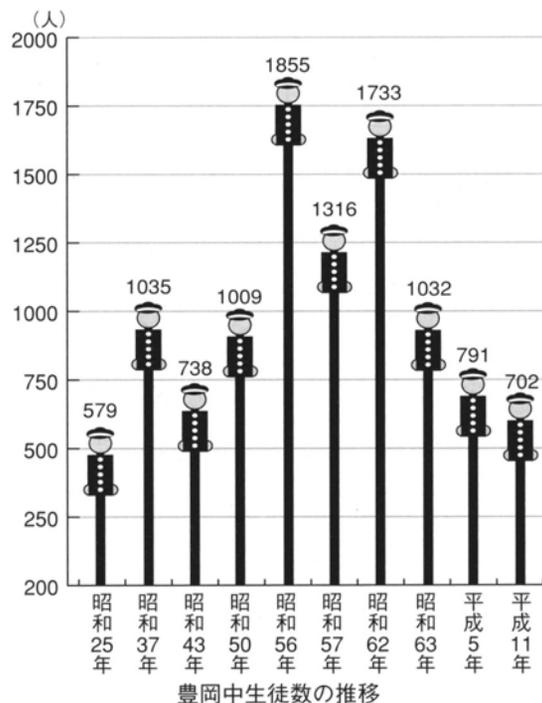
しょんぼけ（肥桶）担ぎ

2回生

当時は、農業という教材があり、畑が今の東部中学校近くの県立農業総合試験場にありました。

肥料として、二人一組で学校の便所の糞尿をひしゃくを使って肥桶に入れ、天秤棒で担ぎ運びました。揺れるたびに跳ねる糞尿に閉口し、上に草をかぶせるとか大便を多く入れるなど工夫したものです。

今は、住宅地に生まれ変わりましたが、当時は一面の稲田で、その中を道草をくいながら運ぶ、のんびりとした時代でした。数々の思い出の中の一コマですが、月日は流れ、まさに隔世の感があります。



ア 学級写真

創立当初の学級写真は、私服や詰襟・セーラー服など服装はまちまち。経済的に豊かな時代ではなかったけれど心は豊かで未来への夢はいっぱいであった。やがて、制服が詰襟・セーラー服に決まり、学級写真も校舎前・屋上神社など学級ごとに好きところで撮ったときもあった。最近ではほとんど体育館で撮影し、ヘアスタイルなど時代の波を感じる。



昭和27年（1952）当時の生徒

イ 体操服

体操服は男子がランニング・白短パン、女子は襟つきシャツにちょうちんブルマーであった。中期は白襟つきシャツ・白長トズボンで男女とも同じものであった。現在は男女とも青のトレーナーとなり、時代とともにデザインも変化してきている。



体操服も一新

ウ 部活動

創立当初、強かったのは庭球部（テニス部）男子であった。剣道部、野球部も黄金期を迎え、最近では陸上部、バスケット部、バレー部などが力をつけてきた。現在では12の



なつかしのバレー部（昭和28年）（上）
県大会で連続優勝のテニス部（下）



運動部と9つの文化部があり、それぞれの分野で積極的な活動を展開中である。

工 給食

豊橋で中学校完全給食が始まったのは昭和44年。昭和52年からは米飯給食が始まった。現在では入学・卒業時には赤飯、夏にはうなぎ、お月見にはだんご、クリスマスにはチキン、ケーキなど季節に合った献立が工夫されている。今では給食を楽しみに登校している生徒もいる。



中学校の給食が始まった

③ 豊岡中学校校舎の移り変わり



1951年正門全景



創立間もない頃の豊岡中学校玄関



1973年ころの豊岡中

④ 東部中学校の開校

東部地区、特に本校の通学区である岩田・多米・豊・岩西校区は平川・平川南部・岩田第一・岩田第二・平川本町・飯村各区画整理事業によって急速に市街化が進み、すでに小学校では岩田小の規模適正化のため、豊小学校が昭和54年度に新設開校した。これに伴い豊岡中学校も生徒数が増加の一途をたどっており、豊橋市教育委員会の生徒数推定（56年4月現在）は次の通りである。

区分	年度					備考
	56	57	58	59	60	
現豊岡中	43	49	53	57	64	岩田小 豊小 多米小 岩西小
	1,855	2,087	2,258	2,439	2,772	
分離後	豊岡中	31	32	35	40	岩田小 豊小 多米小
		1,298	1,372	1,497	1,723	
	東部中	20	22	23	25	岩西小
		789	886	942	1,049	

豊岡中学校は生徒数の増加に伴い、特別教室を普通教室として利用し、なお普通教室が不足しているため、プレハブ教室がプールの横に4教室建てられて利用してきた。

新築中の敷地として、飯村町本郷・岩田町下岩鼻地内にまたがる飯村および岩田第二土



建設が進む東部中学校

地区画整理事業の保留地を、豊橋土地開発公社が代行取得した。昭和56年7月4日起工式が行われた。計画では鉄筋コンクリート4階建ての校舎が完成した。

内訳は普通教室21、特別教室9、管理室9、また、鉄筋鉄骨3階建（一部4階建）延べ3,713㎡の体育館・柔剣道場、技術室2であった。また、昭和57年度で6コース（25m×12m）のプールを建設された。

この新築東部中学校の特色は、

- ①校舎を4階建てで南側にペランダを設置する
- ②学校管理、あるいは生徒、教職員の動線上2階に職員室を配置する。
- ③面積もあまり広くないうえ、北側が低く南側が高いため敷地の有効利用をはかり、この地形を利用して体育館・柔剣道場を3階建て（一部4階建て）とし、1階はピロティ、自転車置き場、2階は柔剣道場と技術室、3階は体育館（4階は放送室、機械室）と立体化する。
- ④普通屋上は、危険防止のために高さ1.2m程度の柵を設けているが、運動場が十分とはいえないため屋上でも軽い運動ができるようボール止めの高さ3mのフェンスを設置する。

開校は57年4月、開校時は20学級、794人でスタートした。

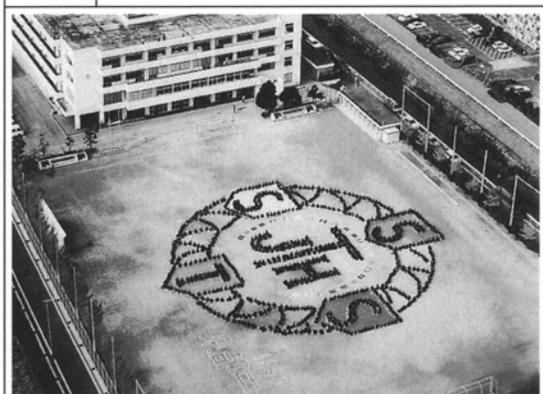
⑤ 東部中学校23年のあゆみ

昭和 57年度 (1982)	<p>開校式典、記念植樹などを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プール起工式を行う ・ 中日緑化推進校として植樹作業 ・ 東部中校区青少年保護育成会総会を開催する ・ 文化クラブ発表会を行う ・ 立志式を行う ・ PTA映画会と文化講演会を開催
	
昭和 58年度 (1983)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「指導の手引き」を作成する ・ 飯村小学校新設に伴い大岩町東山地区を校区に編入する ・ 県教委・市教委から「学校給食について研究委嘱を受ける ・ 学校体育遊具が完成する ・ 校歌制定発表会「光は東より」 作詞 近田三郎 作曲橋木祥路 ・ 給食感謝の会開催 市長、教育長訪問
昭和 59年度 (1984)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連総合地域開発計画研修生が訪問 ・ 校舎増築起工式を挙げる ・ 文部省事業「自然教室」を実施 ・ 「学校給食研究発表会」を開催 ・ 市青少年問題協議会より生徒会が善行活動について表彰を受ける
昭和 60年度 (1985)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎増築起工式を挙げる ・ 豊橋警察署少年補導委員会より育成会補導活動について表彰 ・ 学校給食の運営と指導について文部省より表彰 ・ 音楽鑑賞会開催：セブリアの理髪師 ・ 「目で見える東部中の歩み」発刊

昭和 61年度 (1986)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校園約400㎡が市有地から校有地となる ・ 市制80周年アートフェスティバル ・ 話し方大会・音楽コンクール始まる ・ 第三日曜を「家庭の日」とする ・ 耐寒駆け足を始める ・ 全学年で百人一首大会を実施する
昭和 62年度 (1987)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内写生大会を行う ・ 文化クラブ発表会を発展させ文化祭を実施する ・ 校内マラソン大会を行う ・ 学級対抗リレーマラソン実施
昭和 63年度 (1988)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県・市より生徒指導推進事業の研究委嘱を受ける ・ 市内長距離継走大会で女子が優勝 ・ 元号が「平成」となる ・ 2年立志行事暁天歩行を実施
平成 元年度 (1989)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年保護育成会を「青少年健全育成会」と改称 ・ 陸上部・水泳部が全国大会に出場 ・ 校歌祭に出場する：市民文化会館 ・ 生徒指導推進事業について研究発表する県婦人文化会館 ・ 文化祭で熱気球をあげる ・ 県長距離継走大会に女子が出場 ・ 風邪流行のためマラソン大会を中止する
平成 2年度 (1990)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上部が全国大会・ジュニアオリンピックに出場 ・ 2年が愛知青少年公園で宿泊研修をする ・ 航空写真を撮影する
平成 3年度 (1991)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県総体でサッカー・野球が3位に ・ 陸上部が全国大会に出場する ・ 創立10周年記念学会を開く 名古屋シティ管弦楽団 ・ 創立10周年記念式典を行う ・ 県長距離継走大会に男子が出場 ・ コンピュータ室が完成し20台を設置 ・ 運動場南・東側に防球ネットを設置 ・ 臨時学校休業土曜日が始まる ・ 新人体育大会でソフト・野球が優勝



平成 5年度 (1993)	<ul style="list-style-type: none"> ・東三総体で女子バスケットが優勝 ・県総体でサッカーが優勝 ・合唱コンクール始まる ・文化祭で芸能鑑賞（落語）を行う ・スクールアートの撮影をする
---------------------	---



平成 6年度 (1994)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市教育会館が開館する ・修学旅行で洋上体験 清水～豊橋 ・市総体で剣道女子が優勝 ・第49回国体開始式に2年81名と吹奏楽部が参加する
---------------------	---

平成 7年度 (1995)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年が職業体験を始める ・東三総体で柔道女子団体優勝 ・文化祭で野外劇を行う ・スキー研修が始まる：伊那
---------------------	--

平成 8年度 (1996)	<ul style="list-style-type: none"> ・プールサイド補修工事をする ・全校クラスマッチ：バレーボール ・武道場の畳を入れ替える
---------------------	--

平成 9年度 (1997)	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー研修に替え富士登山を実施 ・台風7号で屋上フェンス破損 ・南校舎前の舗装工事をする
---------------------	---

平成 10年度 (1998)	<ul style="list-style-type: none"> ・市より生き生きスクール推進事業の研究を委嘱される ・スクールカウンセラーが配置 ・2年スキー研修が復活する ・北校舎などの床張り替え工事
----------------------	--



平成 11年度 (1999)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア体験等進路指導改善事業の研究を委嘱される ・「東部中のわ」の活動が始まる
----------------------	--

平成 12年度 (2000)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年職業体験を年2回3日間ずつ実施 ・高校訪問学習始まる
----------------------	--

平成 13年度 (2001)	<ul style="list-style-type: none"> ・全校クラスマッチ復活
----------------------	---

平成 14年度 (2002)	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊学級が新設される ・学校評議員制度が発足 ・ピアサポート委員会発足 ・あいさつサミット始まる ・水泳部全国大会出場 ・通学靴の規制を緩和する
----------------------	--

平成 15年度 (2003)	<ul style="list-style-type: none"> ・「開かれた学校」の研究委嘱される ・全校道徳・映画鑑賞会を行う ・ボランティア活動に対し県知事表彰 ・2年スキー研修：飛騨乗鞍
----------------------	---

平成 16年度 (2004)	<ul style="list-style-type: none"> ・全校道徳・映画「夢追いかけて」 ・東部コミュニティ大学始まる ・南側窓を強化ガラスに替える ・学習コンピュータ取り替え ・職業体験を5日間実施
----------------------	--

平成 17年度 (2005)	<ul style="list-style-type: none"> ・始業を8時20分とする ・通学靴の規制を緩和する ・4ブロックから11ブロックに編成替え ・1年野外活動を復活する ・研究発表会「開かれた学校」 ・スキー研修は本年度で終える
----------------------	---

東部中学校生徒数の推移

昭和57年	789	平成6年	888
58年	932	7年	895
59年	981	8年	887
60年	1,066	9年	893
61年	1,072	10年	886
62年	1,091	11年	853
63年	1,042	12年	835
平成1年	1,013	13年	810
2年	1,019	14年	788
3年	1,021	15年	814
4年	997	16年	801
5年	950	17年	805

開校24年を経て東部中学校は、生徒数が800名を超える市内でも有数の大規模校となっている。

その間、学校の荒れを経験したこともあったが、地域・家庭・学校の連携と協力で乗り越えてきた。校舎は創立当時とほとんど変わっていないものの、時代の変化に伴って教育内容や活動は幾多の変遷をとげてきた。創立の頃の卒業生は、社会や地域の中で中核を担いながら活躍している。東部中学校が地域や家庭と共に歩む開かれた学校を目指し、学校参画型の学校づくりに励んでいることは注目に値する。

岩西・飯村・つつじが丘小学校と連携したあいさつ運動や地域講師によるコミュニティ大学の開設などを始め、新しい時代のニーズに応えようと様々な取り組みを進めている。



東部中学校

(5) 幼児保育・教育施設

① 岩西保育園



岩西保育園

ア 定員 200人

イ 現在の園児数

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
男	3	15	19	31	26	26	120
女	8	12	18	20	28	29	115
合計	11	27	37	51	54	55	235

ウ 職員数

区分	園長	副園長	主任保育士	保育士	調理員	事務員	合計
男	1			2	1		4
女		1	1	31	3	1	37
合計	1	1	1	33	4	1	41

エ 沿革

昭和23年	恩賜財団同胞援護会愛知県支部が児童福祉法施行に伴い保育所として認可され旧兵舎を転用し高師作業所保育所として設立開園
昭和24年	恩賜財団愛知県同胞援護会愛生郷に名称変更
昭和40年	愛知県同胞援護会整理に伴い社会福祉法人豊橋市福祉事業会が設立され、岩西保育園として定員160名に変更
昭和48年	定員230名に変更
昭和55年	特別保育事業である「長時間保育事業」を開始
昭和60年	定員180名に変更
昭和62年	遊戯室新築 定員170名
平成3年	豊橋市の「障害児保育指定園」として障害幼児の保育事業開始
平成4年	定員180名に変更
平成8年	長時間保育事業をさらに最長12時間とする「時間延長保育促進事業」及び「子育て支援地域活動事業」を開始
平成9年	定員200名に変更
平成10年	保育所への入所円滑化対策実施要綱により定員を超えて保育の実施を行うことが可能となる。

オ 活動状況

「心身ともにたくましく、よく遊ぶ子ども」を目標に、家庭や地域社会と連携をとりながら子どもが健全に育つことを望み、人との関わりの中で仲間を思いやる心、協調性、社会性を身につけることを保育の基本としている。

24年連続して子ども人口の減少が続く少子化の中、当園においては、定員の120%弱の児童が在籍し、その中には20%を数えるブラジルを始め5か国の外国籍の児童が在籍している。このように多様化、複雑化する地域のニーズに対して地域の子育て支援を担う重要な児童福祉施設として、一層の発展を目指している。



桜咲く幸公園で遊ぶ園児たち

② 寿泉寺みゆき幼稚園



ア 現在の園児数	200名
職員数	17名

イ 園の歴史

- ・瓦町の寿泉寺は、江戸末期から明治初期にかけて、寺子屋を開き教育寺として、東大出身の前山和尚が住職を務めた時代もあった。
- ・昭和45年、瓦町に寿泉寺幼稚園を設立
- ・昭和51年、東幸町に寿泉寺みゆき幼稚園を開園
- ・開園当初の園児数 150有余数

ウ 教育方針

- ① 子どもにとって親切・丁寧な保育
- ② 智育・体育・徳育のバランスのとれた保育
- ③ 良いこと、悪いことの区別を教え込む保育
- ④ 自然と親しみ、伝統的な行事を大切に伝える保育
- ⑤ 安全、安心な遊具の採用



小学校教育課程にスムーズに入っていけるよう、体操・音楽・絵画・英語の各専門講師による指導をカリキュラムに組み込み、教職員一同、中身の濃い保育に取り組んでいる。

エ 主な行事

4月	お花見
5月	春の仲良し遠足
6月	保育参観、芋の苗植え、玉葱抜き
7月	七夕まつり、合宿（年長児）
9月	お月見会
10月	大運動会、豊橋まつり（鼓笛隊）
	幼稚園まつり
11月	親子遠足、芋ほり
12月	餅つき、生活発表会、大根抜き
1月	鏡開き、カルタ大会
2月	寿泉寺本堂で豆まき、子ども美術展、鳳来寺登山（年長児）
3月	ひなまつり、保育参観
★毎月一回の園外保育	
★子育て講演会	
★土曜日は自由登園日	

③ 愛知県立保育大学校

岩西小学校、豊橋養護学校の西側に県立保育大学校があった。

昭和53年に発足した保育大学校は、「高度の知識と技術を備えた資質の高い保育士」を養成する養成課程と、すでに職場で勤務している保育士に専門的な教育を行う研究課程からなる保育の総合的な教育をめざした学校であった、それぞれの目的を達成して平成13年3月末日で閉校した。跡地は現在住宅地に変わりつつある。

2 社会教育

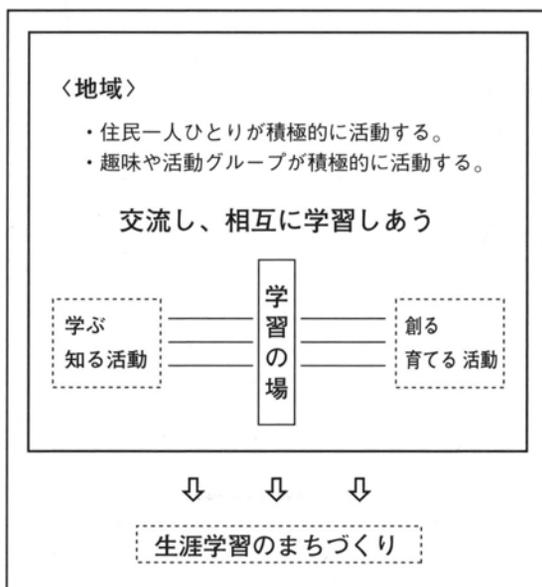
(1) 期待される地域社会の力

豊かで生きがいのある人生を送るために生涯学習を推進していくことが求められている。生涯学習とは「一人ひとりが自由に、自分にあった手段や方法を取りながら、年齢を越えて生涯にわたって必要なことを必要なときに学ぶ」ことである。近年、住民の関心も高く、学習活動も「心の豊かさ」「生きがい」を目的とした「趣味・教養などの学習」から、まちづくり、福祉、環境保全などの「社会的学習」やボランティア活動など社会性のある市民の自主活動など多様に展開されるようになってきている。

したがって、それを推進するため、行政や教育機関などが果たす役割は大きなものがある。豊橋市としても「生涯学習のまちづくり」を推進しようと生涯学習の場の整備に力を入れるとともに学びあい、交流しあう風土づくりにも取り組んでいる。今、生涯学習の視点からも地域コミュニティの活性化が叫ばれているが、これこそ地域社会がもっている「支えあう力」が期待されている証である。この支えあう力、つまり生涯学習を進めるためには人材がどうしても不可欠である。そし

てまずは、この地域に住む校区民の積極的な交流や支援を通してこそ推進することができる。

生涯学習構築のイメージ



(2) 社会教育委員会と東部地区市民館

生涯学習を推進する立場として人的な面では校区社会教育委員会が、そして、その活動する場面としてはこの校区では東部地区市民館が大きな役割を果たしている。

校区社会教育委員会が設置されて50年以上になる。戦後の社会教育の推進とともに歩み続けてきたが、「生涯学習時代」といわれる今日においても、その意義と役割は重要なものがある。

① 地域コミュニティづくりの推進

- ア. 校区社会教育活動を推進するための会議の開催
- イ. 地域連帯意識の醸成・コミュニティづくりの活動を通して、愛市憲章の実践
- ウ. 活動推進と地域課題（市民の日の行事推進、明るい地域・家庭づくりなど）の解決をめざす共同活動の推進

エ. 成人式の開催

② 地域住民の文化・社会教育活動の振興・促進をめざす活動・実践

- ア. 成人講座・コミュニティスクール、講演会など学習活動の展開。
- イ. 校区文化祭・市民館まつりなど地域各団体と共同した文化・社会教育活動。
- ウ. 校区・地区市民館の運営委員会への参画を通しての文化、社会教育活動の振興。

③ 施設見学会、研修旅行、講演会などを通してリーダー養成など地域の指導者やボランティアを養成する活動

以上の3つの分野が、現在の校区社会教育委員会の活動である。今後、さらに家庭・学校・地域の役割分担をふまえた新たな地域からのコミュニティづくりや地域の教育力の回復が求められている今、活動はますます大切になっている。

(3) 東部地区市民館の活動

地区市民館は地域住民がいつでも気軽に集い、話し合うことにより連帯感、共同性を培うとともに、生活文化の向上、教養を高めることを目的とし、昭和49年度から中学校区に順次開館してきた。

東部地区市民館は、昭和58年4月1日、市内岩屋町字岩屋下66番地の1に、市内17館目として開館した。

施設の概要

1. 敷地面積：2,000㎡
2. 建物面積：750.54㎡
3. 構造：鉄筋コンクリート造2階建
4. 施設内容：1階／図書談話室、第1和室、実習室、事務室
2階／第2和室、大集会室

①利用状況

開館当時と比べると利用者が減少傾向にあるが、これは平成6年に東部地区市民館の飯村分館が開館したことや平成7年につつじが丘小学校が開校しそれに合わせて校区市民館が開館したといった影響も大きいと考えられる。それだけでなく確かに平成10年度からの利用者数を見ても明らかに減少している。

これは利用者のニーズが変化していることや、家庭環境の変化などさまざまな要因があるのではないと思われる。ヘルストロンの利用者は増えているので、利用者減少の中でもこのような利用者の声も参考に、これからの地域住民のニーズを的確にとらえた運営の必要性があるといえる。



東部地区市民会館

② 市民館で行われている講座

	内 容	講師(敬称略)	定員	回数
1. 幼児ふれあい教室	親子で歌、リズム遊び	池田信子等	20組	5回
2. 高齢者セミナー	ギターと歌、歯の健康、落語他	歌謡教室講師、歯科医師等	60人	6回
3. 楽しい絵手紙	絵手紙の描き方	井口正夫	20人	10回
4. ストレス解消学	日ごろのストレスをためないために	武田圭太ほか	40人	5回

市民館講座 (平成18年度)

市民館が生涯学習を進める上で拠点となるようにさまざまな講座を計画して地域の人に参加してもらっている。

③ 自主グループによる活動

趣味や特技を活かして仲間を募り自主的に運営しているグループの活動もある。

曜日	午 前 (9:00~12:00)	午 後 (13:00~16:00)	夜 間 (17:00~21:00)
火	うぐいす エアロビクス 絵手紙 着付 シャイニマム	さつき会 のんびり体操 シニア卓球	バレエ 合気道 コアロマンテ コアロフェリーチ
水	チアーズ 生花 ワイすく広場 編み物	仲よし会 フィットネス 水仙の会 三味線	空手
木	野菊会 音楽体操 コロソアウエ	カナリア ジャズダンス シニア卓球 らくちんヨガ	空手道
金	ママエクササイズ シャイニマム 水墨画	体操 ヨガ体操 飯村会	空手
土	あじさい会 フィットネス 書とてん刻	小原流 着付 シニア卓球 パララックス ハンディビクス	ラビット アセンブレア 彩の風
日	ストレッチ ギター 太極拳 ナザレニ	合気道 六門符 ラビット	六門符 アセンブレア

自主グループの活動 (平成18年度)

④ 地域いきいき子育て促進事業

子どもたちの長い休みの間を利用して「子どもが健やかに育つ地域社会」づくりをめざして、さまざまな活動をおこなっている。

No.	内 容	No.	内 容
1	勉強会 (夏休み宿題、ドリルなど)	4	地震の勉強会と震度体験 ※震度6の揺れを体験 します
2	工作で遊ぼう! (定員20人)	5	ダンス
3	おやつ作り (定員20人)	6	お楽しみ会 (定員20人)

講師：CSNのメンバー (愛知大学国際コミュニケーション学部学生等)

【資料1】 岩西校区・周辺校区の町名由来、通学区域

- ・岩西とは、岩屋町と西口町の二町であった、戦後両地区の一字をとって岩西の呼び名ができた。
- ・岩屋町、西口町の国道一号線以南が岩西校区。
- ・東幸町は軍用地となっていたため、戦後もしばらく行政上「高師原官有地」であったが昭和32年3月、国有財産中央審議会答申以後払い下げられた。開拓名は「岩西開拓」となっていた。
- ・「幸」とは、天皇陛下が予備士官学校（現在の愛知大学）に御行幸され岩屋山より展望されるため通られた道路（御幸道）にちなんで名付けられた。
東海道本線を境に西幸町（幸校区）、東幸町に分けられた。東幸町の字名（東明）は戦争中駐屯した部隊名を地名にしたとのこと。
- ・高師町の大部分は、栄・幸・芦原校区にある。栄生町総代、南栄町総代区域に属する部分、高師町総代区域に属する部分を除く字北原、字奥山田、字清水、字水神、字丸

田は岩西校区となっている。

- ・佐藤町は、渥美郡高師村大字佐藤の地名、即ち大字名が呼び名で、昭和8年頃十数戸であったようである。現在、佐藤、つつじが丘はつつじが丘校区。佐藤町は岩西校区。
- ・三ノ輪町の歴史は古く、東海道沿いに士族屋敷もあった。かつて東三ノ輪町は岩西校区であったが現在、字本興寺が岩西校区。
- ・飯村は飽海の磯部家が吉祥寺東に分家して来て「飯」と名乗り、一帯を飯村と称され町名ができた。
当初は、本郷、中島、二軒茶屋の三字で、西山地区は明治22年頃、高山地区は戦後開拓され、その後本郷、中島、二軒茶屋、茶屋、西山、高山となった。現在は、西山、飯村北・南、飯村、北山となっている。
- ・市営、県営の団地は、旧陸軍の第二予備士官学校の跡地に、愛生郷ができ、後に市営団地とし新生され、続いて県営団地が建てられた。

【資料2】 岩西小学校卒業アルバムより 昭和28年（1953）

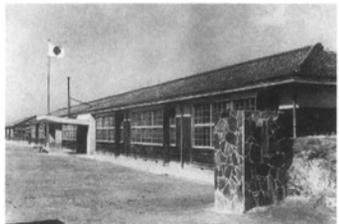
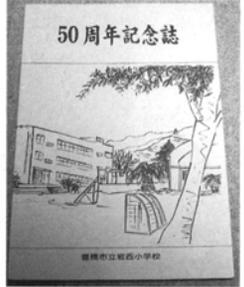


当時体育館がなかったため、愛生郷の演舞場を会場に当時の学芸会を開いていた。
昭和31年の学校日誌には参観者1,500名とある。

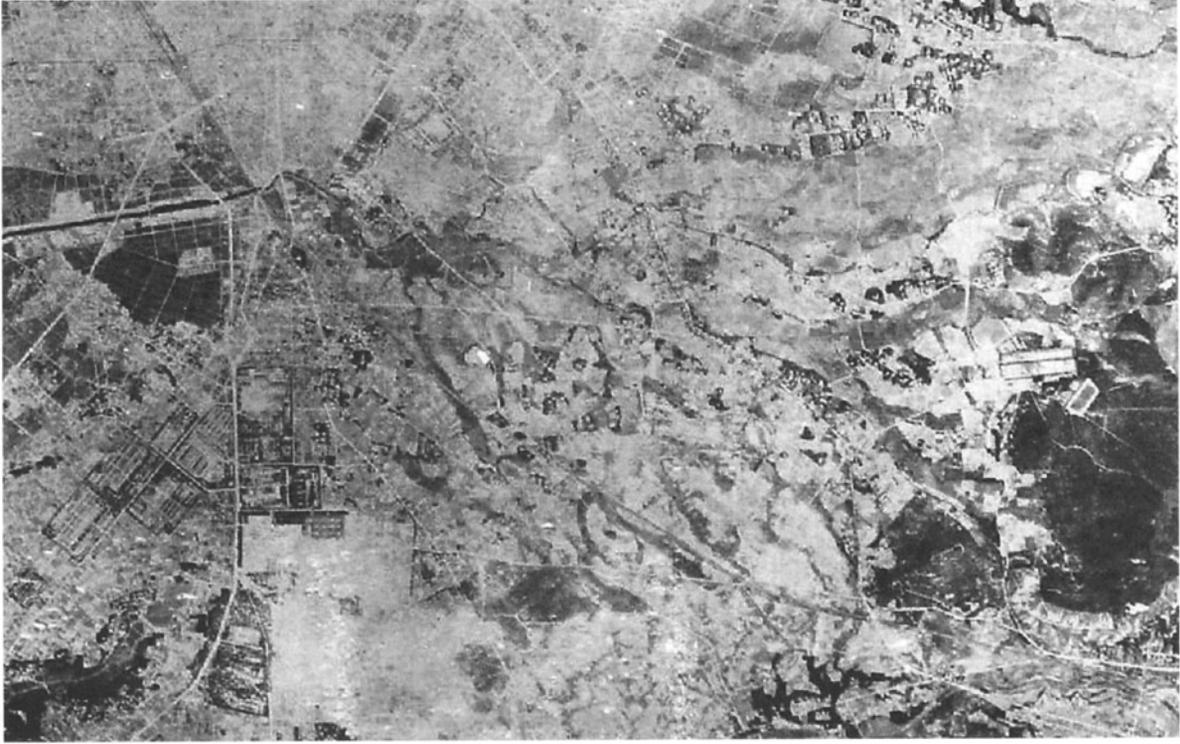


【資料3】 校区の歴史

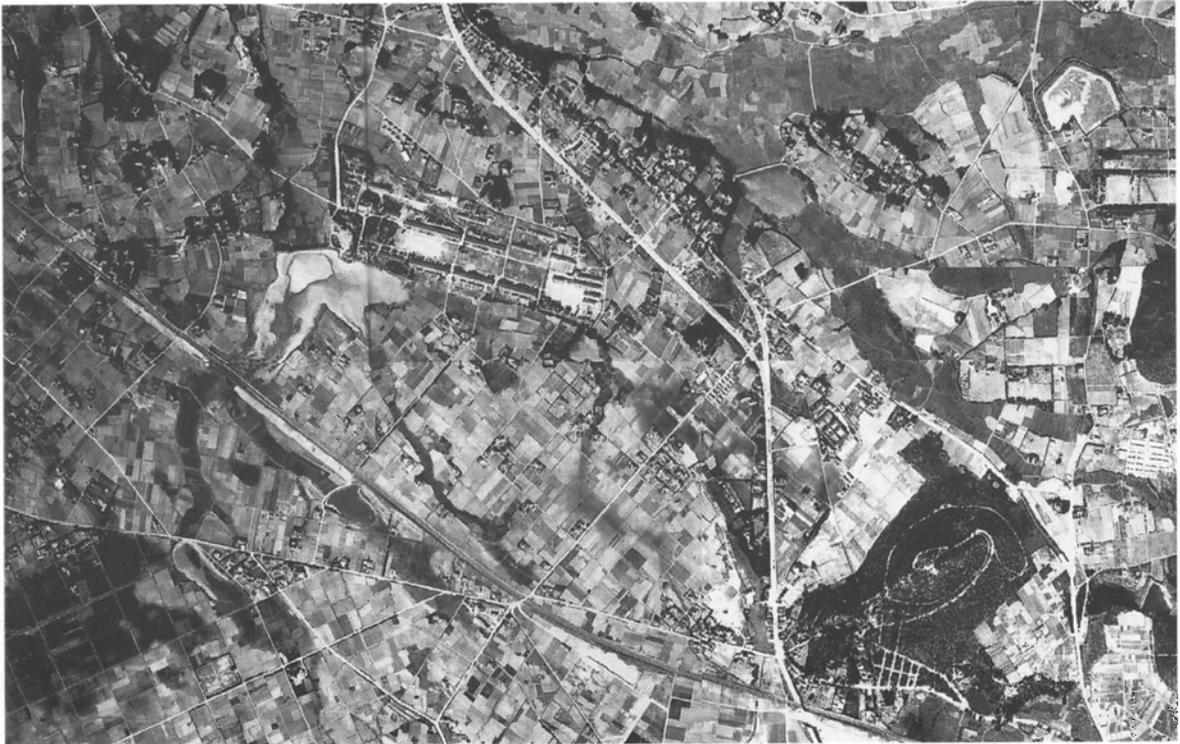
60～120万年前		岩西校区の台地がこのころ堆積された。渥美層群といわれる。	
奈良 平安	730	岩屋山 行基が千手観音を岩穴に安置した 岩屋下古窯がつくられた	
	1601 1635 1765	東海道に伝馬性、二川宿、吉田宿が置かれる 参勤交代制度ができ、東海道を旅する人や物の 往来が増す 岩屋観音が建つ	
	江戸		 <p>飯村の旧東海道にも松並木があった</p>
 <p>旧岩田小学校</p>			
明 治	2	1869	吉田が豊橋に改称
	4	1871	豊橋・→糠田県→愛知県
	5	1872	
	6	1873	三ノ輪学校、仁連木学校、田尻学校ができる
	9	1876	田尻村平川新田、下岩崎村上岩崎村、手洗村が合併して 岩田村ができる田尻学校は岩田学校と改称 東海道が国道 一等道路になる
	15	1882	上岩崎村、手洗村が岩田村から分離し岩崎村と改称する
	21	1888	岩田村、岩崎村、東田村（旧仁連木村）、瓦町、三ノ輪村、飯村が合併し豊岡村となる
	22	1889	豊岡村立尋常高等小学校となる
	26	1893	豊岡村立豊岡第一尋常小学校となる
	29	1896	豊橋市に合併 豊岡尋常高等小学校と改称
	39	1906	豊橋町、豊岡村、花田村の1町2ヶ村が合併して豊橋市となる 人口37,635人
	40	1907	豊橋市立岩田尋常高等小学校
	43	1910	岩崎分教場できる
大 正	2	1913	豊橋市立東部公民学校
	3	1914	豊橋に陸軍が置かれる 高師原は軍用地となる
	14	1925	豊橋の市電開通
	15 元	1926	岩田小学校内に岩田青年訓練所ができる
昭 和	7	1932	渥美郡高師村大字岩屋下が豊橋市に編入され岩屋町、西口町となる
	15	1940	豊橋陸軍教導学校が西口町へ移転 町畑校舎は予備士官学校となる
	18	1943	豊橋陸軍教導学校閉校式 町畑の豊橋陸軍予備士官学校を豊橋第一陸軍予備 士官学校とする 西口の豊橋陸軍教導学校を豊橋第二陸軍予備士官学校と改称
		 <p>予備士官学校北門付近</p>	

昭 和	20	1945	6月豊橋大空襲 敗戦 岩西工区の開拓が始まる	
	21	1946	恩師財団織細援護会 同胞援護会の設立	
	22	1947	新制小中学校発足	
	23	1948	高師作業所保育所開設	
	24	1949	財団法人恩師財団愛知県同胞援護会へ移行 愛生郷と施設名の改称	
	25	1950	豊橋市立岩田小学校分校として開校（1年～3年生まで） 豊橋市立豊岡中学校開校 新しい豊橋駅ができた	
	26	1951	4月1日青陵中より分離 豊橋市立岩西小学校開校 岩西小学校開校（愛生郷講堂において）	
	27	1952	NHKテレビ放送開始	
	34	1959	伊勢湾台風	
	35	1960	TV設置、小学校家庭室で視聴開始	
	36	1961	学校周辺に上水道が引かれる	
	39	1964	学校内の軍施設（弾薬庫等）を解体撤去 東海道新幹線開通	
	40	1965	社会福祉法人豊橋市福祉事業会設立 岩西保育園と改称	
	43	1968	豊川用水完成	
	46	1971	体育館竣工（3/25）鉄筋三階建6教室竣工	
	47	1972	鉄筋三階建6教室竣工 学制100周年記念植樹いちょう10本体育館南へ	
	49	1974	鉄筋三階建3教室増築竣工（1/24）	
	51	1976	東幸町に寿泉寺みゆき幼稚園開園	
	54	1979	サッカー部韓国へ遠征	
	55	1980	創立30周年記念式典 記念誌発刊 「建設の石」入魂式	
56	1981	学校周辺、公共施設に下水道設置 木造校舎から鉄筋校舎へ		
57	1982	豊橋市立東部中学校開校		
58	1983	東部地区市民館開設 国旗掲揚塔新設 運動場拡張工事完工（西木造校舎撤去） 飯村小学校が分離開校する		
61	1986	市制施行80周年 タイムカプセル設置		
62	1987	岩西少年サッカー韓国遠征	子どもたちが地域を学ぶ 教科書「マイタウン岩西」	
平 成	4	1992		国際学級（アミーゴ）開設
	7	1995		つつじが丘小学校が分離開校する
	10	1998		南校舎大規模改修工事
	11	1999		学校インターネット接続
	12	2000		創立50周年記念式典・記念誌発行
	15	2003	北校舎外壁塗装工事 副読本「マイタウン岩西」発刊	
18	2006	市制施行100周年 校区夏祭り開催 校区史編纂	岩西小学校創立50周年 を記念に発刊された	

【資料4】 昭和28年（1953）撮影の航空写真



【資料5】 昭和36年（1961）撮影の航空写真



参 考 文 献

マイタウン岩西（豊橋市立岩西小学校）
創立30周年記念誌（社会福祉法人 豊橋福祉事業会）
岩西小学校創立30周年記念誌（創立30周年記念事業実行委員会）
岩西小学校創立50周年記念誌（創立50周年記念事業実行委員会）
とよおか50th ANNIVERSARY（豊橋市立豊岡中学校）
創立十周年記念誌（豊橋市立東部中学校）
とよはしの歴史（豊橋市）
とよはしの上下水道（豊橋市上下水道局）
愛知県開拓史（愛知県）
高師風土記（高師風土記刊行委員会）

編 集 後 記

編纂の任をいただきました。

これまでも小学校、中学校が中心となり、幾多の資料が掘り起こされ、記念誌として発刊されてきました。この度、市制施行100周年記念「校区のあゆみ岩西」の編纂では、新たな資料を加え、この地域のなりたちや発展の様子、郷土を開いてこられた人々の苦勞を軸にまとめてみました。執筆、資料提供いただいた方々のお力添えに感謝し、あすの岩西を築く一助となることを期待してやみません。

岩西校区史編集実行委員

編集委員

加藤 章	大澤 昌章	村 雲 文佐子
柴田 孝和	深井 都雄	太田 弘文
村 雲 喜典	北河 利己知	加藤 保二
田中 信吉	平野 聴光	鈴川 徳昭
山口 哲充	細川 創	福井 基明



協力者等（順不同敬称略）

大山 剛三	浅野 且久	村松 末信	鈴木 豊
長坂 礼次	小野 三夫	荒木 清	

校区のあゆみ 岩西

平成18年12月25日発行

編 集 岩西校区総代会
岩西校区史編集委員会
発 行 豊橋市総代会
印 刷 株式会社 きょうせい

2100
古紙配合率100%再生紙を使用しています





2006年
市制100周年
100th Anniversary Toyohashi City

つながり ひろがる 未来 豊橋